女學雜誌

一册六錢

毎土曜日發兌

第百八拾六號

當府內無郵稅

郵稅五厘

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

雜　　女

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 185. NOVEMBER 2ND, 1889.

EDITORIALS:—Distinction between Statesmen and Politicians. Influence of the Fine Arts over a Nation. Our Expectation from the Artists of the Present Time.

LEADING ARTICLES:—Work of the Members of W. T. C. A. (Mrs. Asai). Answer to an Inquiry concerning the Nature of the "Ladies White Ribbon Association." (Mrs. Sasaki).

CRITICAL NOTES:—"Kokukwa." Mr. Nansui's "Inkunshi" Hereditary Transmission of Parents.

MISCELLANEOUS:—Influence of a Mother's Mental Agitation on the Milk. Different Schools of "*Hai-Kai*" Poems. Three Different Schools of Modern Prose Writers. One-sided Literary Critics. Hygienic Treatment of Consumption. (K. Nitta) Conversational Jewels.

NOVEL:—"Sumire." (Wakamatsu Shizu).

OPEN LETTERS:—To the Editor of Jogaku Zasshi. To Mr. Fujinoya.

CONTRIBUTED ARTICLES:—Poems written by Mr. Ikebukuro.

NOTES ON THE NEWEST ISSUES.

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

SINCE OUR LAST ISSUE.

第百八十六號目錄

社說　政治家、政畧家○美術は國家に大關係を有す○方今の繪畫者に望む

論說　矯風會員の勤勞(淺井作子)○婦人白標倶樂部の性質を演べて世上の一疑問に答ふ(佐々木豐壽)

批評　國華○南翠外史の「隱君子」(犹橋老人)

雜錄　親の遺傳○母の心持と其乳汁の關係○俳諧の諸派○近時文章三宗○偏癖文章論者○肺勞の養生法(仁田桂次郎)○談話の珠

小說　すみれ第三回(つぼみの時)

寄書　池袋清風子の歌(雪峯子)○今日の作文(叢菊野史)

開書　女學子に寄す(田村武治)○藤の屋先生に寄す○問答

時事　宮中農家あり○元治の昔し、明治の今日○楠公と伊藤伯○青年の眞髄○富士山傍の新ダミエン○滿場の僧侶諸君○福田會育兒院○秋菊○紅葉○蝶美人○歌舞妓座○中止論者の責任○公立學校、私立學校○秀麗なる古畫○國文學○褒賞

女報　東京女子手藝學校○內外國人結婚數○產婆會○忠實ふる下女○遊廓設置指令取消願○其他四件

WOMEN IN JAPAN.

(1) *According to the Tokyo Municipal Report of last year, there were two Japanese women who married Englishmen, and one American woman who married Japanese.*

(2) *The "Gei-Bi Daily News" states that recently the number of convicts, but especially female convicts, in the Hiroshima Prison, have been increasing at the rate of ten persons a day.*

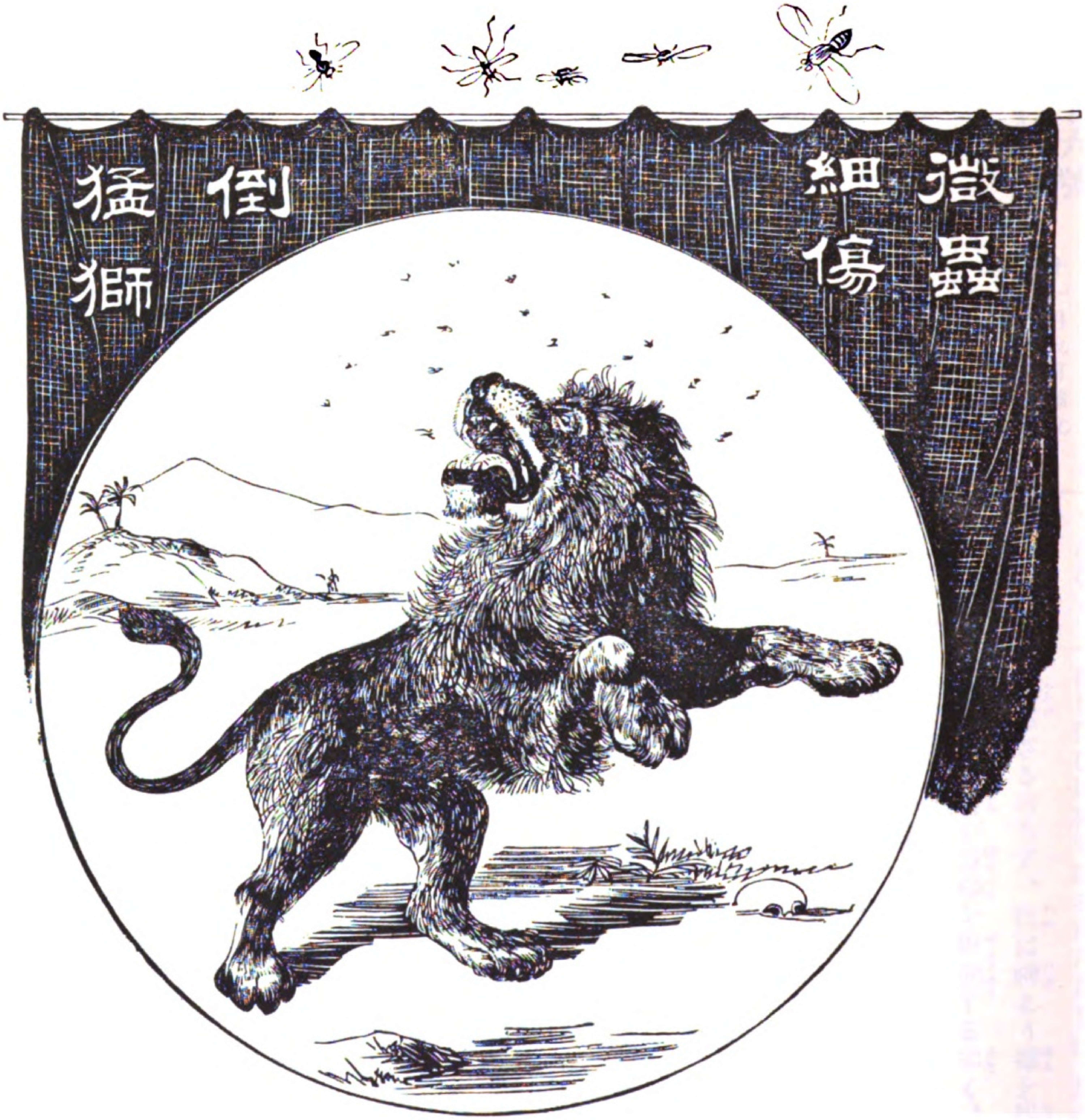
(3) *Some two hundred women of Totsugawa, Yamato, who had been severely suffering from the recent flood, applied for work to the Osaka Weaving Company and were employed.*

(4) *Twenty-eight young men's Christian Associations of Kozuke Province held a convention at Takasaki on the 28th of October, and passed some important resolutions, concerning the steps they would take with regard to the prohibition of prostitution throughout the whole country, and especially in their own province.*

(5) *The "Tokyo Industrial School for Girls," newly established on the ground of Shiba Park by Mrs. Chiyo Kozaki and other ladies, was opened on the 7th proximo. The Principal of the School is Mr. Goro Takahashi, and its trustees are the wives of Messrs. Shibusawa, Masuda and Yoshikawa. Mrs. Clara Kaji and Mrs. Hirata are among its teachers. The object of the School is to train the Girls in industrial arts, as well as to give them general education.*

誌　　學

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY



Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

女學雜誌 第百八十六號
明治二十二年十一月九日發兌

社説

○政治家、政畧家

ステーツマン、之を稱して政治家と云はん、ポリチシアン、余之を稱して政畧家……寧ろ權謀家と云はん、其形甚はだ似て躰遠く異なる、未だ如此く相違するものあらざる也。

凡そ政治家なるものは、歴史、經濟、及び多くの學術を學び、たとひ深きを要せずと云へども博ろく之を知り、其の万能の智あるとグラッドストーンの如くならざる可らず、而して心情に於て厚く國民を愛し、經驗、智慧、道理を併せ有し、聰慧にして且つ愛國心に富み、能く自己の利を國民公利の中に沒入せざる可らず、其言ふ所ろは豫言の如く、其教ゆる所ろは聖經の如く、一身能く豫言者と聖人とを兼ね、國民の注意尊敬を引くの力なかる可からず、識見遠大、思慮深密にして一黨一派に關せず、超然として万機を總攬するの量あらざる可らず、之を要するに、道念、愛國、人情、正義等の觀念常に其腦中に充ち、上は上帝を敬し、下は國民を愛し、深く慮りて一朝果行するときは、斷々乎として榮辱成敗に羈せらるゝとなく、一夜其行ひに於て恥る所ろあらば、万の自利を棄るも一の民利に從はざる可らず、彼は神より權を賜はり、民より力を托せられ、哲學者が万學を研究する如く、彼は万理を收攬し、時の最善最幸なる者を察して之を實行する也。

政畧家、寧しろ權謀家なるものは然らず、其の上手なる政畧家たらんを欲せば、識見狹く、無學にして貪慾なるべし、而して巧慧にして機智に富み、甘く危きを避け、迅速に利のある所に趨り、何人とも手を握り、多く約束して遠慮なく之を破り、何如なる人にも如何なる事をも爲さんと仕托して利あらずんば敢てせず、細務に盡力して大關係の問題に重きを負わず、一政黨若くは一藩閥に掛念して、廣く大愛するなし、偶ま正直なる如しと云へども大事に正直なるとなく、欺きて恥ぢず、只だ失敗に恥ぢ、富める時誇り、貧しければ安んぜず、其念頭、利益、安逸、權力、一家、目前、名譽と云へるもの充滿す、未だ嘗て、國民、永世、大道理、上帝と云へる如きものを考ふるとなし。

政治家及び政畧家の相違如此し、此れ吾人一家の言にあらず、學者多く如此く言へり、此に由て之を見る、吾が國の今日、果して政治家多き乎、抑も亦た政畧家多き乎。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

○美術は國家に大關係を有す

夫れ衣食足りて禮節生ずと云ふ、彼の百藝中の禮節あるもの、即はち美術と云へるもの、國家餘裕を存して后ちに初めて生ずるは當に然るべきとなり、世若し戰爭熾んなるときは美術未だ出でず、飢饉行われて民疾苦するときは美術未だ來らず、勞々貧窮して家に足るとなければ美術尙未だ起らざるあり、但だ夫れ茲に多少の餘裕を存し、孜々として生死衣食に奔走するの憂ひあらざるに至り、人間本然の美欲は則ち發揮して其望みを要む、此に於て乎美術あるなり。彼の農夫が風に嘯ふくを見よ、彼れ働らき止みて則ち休息すればあり、彼の茅屋に細花を插ざすを見よ、人終日の苦を畢りて茲に其勞を慰せんとすれば也、一國に於て美術の起る亦如此し、天下太平にして、四方に戰爭危急の事なく、民人や丶安んじて其樂みを享るに至り、初めて音樂、詩歌、演劇、小說、繪畫、彫刻、建築の事盛んとなる。左れば此等美術の盛んとなるは、國安康にして民に餘裕あるの兆なり、此一點より窺がひ去れば吾人之を祝せざる可らず。

然るに、何如なる時世に於ても多少の安樂ある人なきにあらず、殷紂夏桀は古への尤も慘酷なる君にてありき、左れば其配下の人民は終生塗炭の苦に難やみ、啻に安んじて衣食する能はざりしのみならず、其一身の生命すら尙安穩なると能はざりき、斯る時に於て彼等に何の餘裕ありて美術に太平を謳ふとを得んや。然れども當時に於て尤も餘裕あり、尤も安樂あり、尤も豪奢するとを得たる二個の人あり、即ち紂王桀王の二人是れなり、彼等民の血を吸りて慢歌遊樂せり、其富山の如く、海の如し、茲に於てか彼等が牙は象牙なり、彼等が食は山川の美味なり、彼等が宮宅は天下の樂園なり、如此く彼等は美術に厭きたり、而して此の美術は實に餘れるより生じ、其餘れるは万民の足らざるより來れり。故に万民に餘裕なくんば万民に美術あるなし、然れども万民の餘裕を奪ふて一身の安樂を造るものは、如此き奪略者の間だに於て特別に美術を起す、ピラミッドは千古の偉觀、万里長城は百世の絕工にして、共に國民の餘力を奪ひたる少數人の美術となれり、誰か云ふ豐公の大佛は美なり、文化文政の藝能は巧みなりしと、吾人を以て之を見れば皆是れ重課壓制の餘に出づ。若し此等の美術を作するに當つて抑そも幾千の民か疾苦したる、水牢に投ぜらる丶ものあり、火刑に架せらる丶ものあり、忙絕の季道に重きを荷ふて倒る丶ものあり、而して其の搾出

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

する所ろの餘力餘財凝つて封建時世の美術となる、暴君見て之を美なりとし、逆臣頌して之を美なりとす、然れども今に於て之を見れば一個の暴逆碑に過ぎず、轉々其下に徘徊して昔日の民怨を察す、吾人憤死せざるを得ず。益王宮室を落成して僚屬に見す、誇つて曰く偉壯ならずやと、姚坦答へて曰く余れ血池肉丘を見る、未だ美なる假山を見ずと、吾人が昔日の巨堂壯殿に接する常に此の歎あり。苟しくも如此き餘裕に成れるの美術起り來らば、其の起るや國危ふく、民に餘裕なきの兆あり、此一點より窺ふときは吾人之に向つて慨歎痛惡せざる可らず。

今や我國の美術大に起らんとす、其起るや必らず餘裕より來るを知る、抑そも人民の餘裕か、官府の餘裕か、若くは官府と人民との間だに存す一種不可思議なる者の餘裕か。若し人民の懐ろに於ける正當なる餘裕より出るとせば吾人は常に太平を歌ふべし、若し官府の藏に於ける正當なる餘裕より出るとせば吾人は亦た頌徳を賦すべし、万一一種の惡むべき寄生動物あるの餘裕より生ずとせば吾人は慷怒憤叫すべし、其の何れにてあるやを知らんと欲せば、即はち如何なる美術の正に起り來るやを見るべし。

人民の餘裕より生ずる美術は、平民的なるべし、故に普通なるべし、廉價なるべし、淡泊なるべし、公平正大なるべし。

人民の餘裕を奪ひ、民の膏血を吸ふの美術は、貴族的なるべし、故に偏僻なるべし、高價なるべし、濃重なるべし、不公平不正大なるべし。

吾人は近年小説の行はるゝを見る、唱歌の行はるゝを見る、音樂の行はるゝを見る、而して小説に言文一致の躰流行し、唱歌に平易なるもの流行し、音樂にも稍や普通なるものゝ行はれんとするを見る、此等の事祝すべきに似たり。然れども鹿鳴館に於けるの踏舞、高價なるピアノ、數百千圓の油畫、官府及び大臣方、貴顯方、官員樣方、紳商方にのみ限るの美大建築あるを見る、未だ決して喜ばしきの兆にあらず。而して一方には人民の樂集すべき立派なる會堂ありや、其建築上に於ける美術果して何如ん、人民の樂遊すべき美ある公園ありや、其取締上に於ける美術果して何如ん、普通人目の觸るゝ所ろに感賞すべき像畵存せりや、普通人耳の聞く所ろに歎美すべき音樂鳴れりや、吾人未だ見聽する能はず。漆器、陶器、繪畵に美なるものを出し來れり、然れども此は日本人が購買するものにあらず、美術上の雜誌に甚大なるもの現はれ

來れり、然れども其價値非常にして此は普通人の決して購讀すべからざる者也、此等の兆果して吾人が喜こぶべきものありや。

美術上に於ける理想を見て國民の道德を知るべし、美術の種類品格を見て一國の盛衰を卜すべし、一幅の畫、一篇の小說、一彈の樂、一堂の建築、倘是れ政治家、宗教家、社會學者が尤も注目探究せざる可らざるもの也。

○方今の繪畫者に望む

二三年來美術の氣運大に勃興せり、此頃に至つて其尤も隆盛ならんとするものは即はち繪畫にてあるべし、今や明治美術會の展覽會正に畢り、日本美術會の展覽會正に開け、國華と云へる大雜誌其初號を發刊し、新術流派の手よりも亦近々一大雜誌を發兌せられんとす、今日は正に是れ陽氣一來花芽帶を破らんとするの候なり。

美術の精粹は、天地人類の神象を形はすにあり、夫れ現世は唯物の世界にあらず、風自から吹き、其何處より來り何處に行くを知らずと云へども、世上の實相には確かに物質の外か一の靈元あり。其の凝つて大ひなるや妙不可思議の大自在力となる、人之を呼んで或は上帝と云ひ、玄々と云ひ、無々と云ひ、自然法と云ふ、其の凝つて形ちを有するや、人類となり、禽獸となり、逸蕩として之が殿堂に寓し、或は發して百世の歷史に透り、或は歌に入り、或は詩に隱れ、樂となり、宗教となり、道德論となる、其躰万種なりと云へども一の靈々なる玄氣を存ぜざることなし。於此乎、理學者は之を解剖し、哲學者は之を演繹し、學藝家は之を實用し、政治家は之を配調し、宗教家は之を說法す、美術者の如きは則はち之を形ちに現はすもの也。

美術者の天職は此の神象を形わすに在り、但だ夫れ彼等往々放蕩遊逸、其の自から樂しむ所に據りて以て技を弄ぶものあり、而して如此き美術者中きゝ亦た著名卓犖の人なきにあらずと云へども、要するに是れ美術者本來の命を忝すものにあらず、彼等宜しく山水に代りて其山水の美を現わし、人間に代りて其人間の性情を形わし、治亂興敗に代りて其治亂興敗の跡を示し、鳥聲美音に代りて其鳥聲美音の響を鳴すべし、此れ哲學者が之を論じ宗教家が之を說くと同様の功にして彼れは亦た天に代はる一種の大學者にてある也。

總べての美術者當に如此なるべし、就中尤も自由に其形を現わし、尤も好く其の形体上の感覺を起し來る彼の繪畫に於ける美術者の責任は、亦尤も先づ如此なるべき也、但だ自から好むが故に畫き、自から樂しむが故に畫き、眞理公道に關はりて何の感ずる所ろもなくして畫き、たゞ浮々飄々として自娛樂の遊藝と覺悟して畫くに於ては、彼等誠し一個の畫かきたることを得たり、未だ繪畫上に於けるの眞美術者に非ず、美術上に於けるの大學者大哲學者たるの資格なき也。

吾人が繪畫者を見ること甚はだ重し、彼等亦た能く自重し、思想謹嚴純正にして深く大道理に感ずるの切ならんことを要とむ、ボウロ曰く森羅せる万象世の初めより此方現わして得て殘す所ろあしと、蓋し此の天地は美妙なる天地にして、山も、水も、草木も、禽獸も、人も、國家も、皆な相對して一の大本理を現わせり、繪畫者たらんもの宜しく此の大本理を形わすことに於て務むる所あるべし。皮相を畫きて其神を穿たざるは繪畫の凡なるもの也、山水の外形を寫して山水の內形を寫さず、人物の骨肉を寫して其神情を寫さず、歷史の形迹を寫して其の榮枯盛衰を寫さゞるは、未だ繪畫に達するものに非ず。

去れば吾人は天地間畫題限りなしと信ず、然れども只だ山水を寫して人物を畫かざるものあるに至つては少さか憾まざる可らず、山水もとより其裏に一の神情を有せり、左れど之を寫出するは甚はだ難し、此に於てか山水を寫すものは只だ山水の外形を形はすに止まる、而して只だ外形を形はすの山水を畫がきて畫手の事終ることなすもの多きに至ては歎ぜざる可らず。特に山水の畫に於ては理想畫を造ることの至難なり、嗚呼何んぞ理想畫を造ることの至難なるのみならん、甚だ美なる山水ありと云へども之を悉とく寫す能はず、法眼の筆ありと云へども若し尤も秀麗佳絕なるの地に臨むときは偶ま筆を投じて止まざる可らず、故に山水の畫は山水の實美に及ばず、辛ふじて之に及ぶと云へども之に超越すること甚はだ難きなり。

然るに人物の畫に於ては殆んど之に反對し、實際有らざる所ろの人物をも敢て理想して之を描出することを得べし、蓋し人の尤も美なるは高尙なる人なり、思想高潔にして天光其情裏に燃ゆるときは、面色自から氣高くして一種神來の象を現ず、如此き人を畫くときは見るもの之に臨みて肅然襟を正さゞることなし。然るに實際に於て如此き高潔なる人物を得ること甚はだ難くして、人の理想中に於て之を求むるときは決して得がたきに非ず、恰かも之れ万人の心中万の聖人あり、之を外

界に求むるときは敢て一人の聖人あるを見ざるに似たり、故に此の理想を形わして高尚なる人物の畵を造ると雖きにあらず、古來多くの名筆は即はち此の如くにして名畵を出したるなり。故に人物を畵題とするものは眞美術者たるに易く、山水魚介を畵題とするものは眞美術者たるに難し、雖を偽す不可なりと云ふに非ず、凡手の虎畵多く猫となるを知らば、先づ猫を畵きて虎威を附するに如かずと云ふのみ。然るに今の畵家多く山水魚介を畵きて人物を畵かず、之を以て其畵を見るに神氣を現わし得るもの甚はだ少なし、希はくは自今先づ能く人物を畵題とすべし、人は万物の靈、天地の粹なり、宇宙靈玄の氣尤も多く玆に粹まり尤も能く此に現わる、此の適切恰好なる畵題を棄てゝ遠く魚介山水に行く、吾人實に畵者の精神何の處にあるを知らざる也。

人は其形體に於て尊とからず、其精神あるに於て尊とし、其精神は能く思想するが故に尊とからず、善を思想するとあるが故に尊とき也、人情と云ひ、愛情と云ひ、愛國心と云ひ、犠牲獻身の情と云ひ、高尚純潔にして正を好み不義に憤ごふるの情と云ひ、忠孝義烈にして鬼神を泣るゝの情と云ふが如きものは、實に人の思想中の高尚善美なるもの也。若し人物を畵かんとするものは即はち此等の情を畵かざる可からず、此等の情を畵くとは即はち此等の情が彼の人情表現の首面たる、顔相容貌に現はるゝの形象を畵くとなり、畵者もし此を寫すとを得ずんば未だ達なるものにあらず、而して能く此等の高尚善美なる人情を寫すものは即はち此等の人情を解し得るの人ならざる可らず、此に於てか道德下賤なる畵者は總て非凡の秀作を造ると能はざる也。

彼のアンゼローを見よ、洪識シエクスピアの如く、深沈ダンテの如く、純潔ミルトンの如く、慷慨ルーテルの如く、深く大道に感じ、切に人情に至り、望む所ろ高尚正大にして、敢て遊戯耽溺するとなかりき、之を以て彼が千古に絶するの偉作ありし也、古來の大畵幅は多く宗教上、道德上、社會上等の觀念より發す、我國の古畵中尤も奇大偉玄なるものは佛教より來り、西洋に於ける其如きものは大抵基督教より來れり、吾人は玆に何の宗教と云はず、然れども之を例するに先づ宗教の如き、人世を大觀せしむる高大なる思想に激せらるゝ所ろなくんば、遂に秀拔の畵を出す能わずと斷言すべし。

吾人切に之を有爲なる繪畵者に望む、諸君先づ美術者の天職を知るべし、宜しく自重して大道に寄るべし、徒らに山水魚介禽獸に偏せずして彼の天地間の精美最靈なるものを寫すべし、宜しく人情の正大なるものを解し之が描出して天地の大玄を形わすべし、宜しく一心を正しくし大なる道德に刺され深く天來の氣に吹散せられて筆を揮ふべし、眼界を濶宏に自任を重大にし古しへの大名家に績がんとを熱心せらるべし、此れ美術の爲めにのみ望むに非ず實に日本國家の爲に望むものゝ也。

論説

○婦人矯風會員の勤勞

會員　淺井さく述

老婦嘗て彌爾氏の經濟書を覗きし事ありしが勤勞にかゝる功用を解釋して曰く凡そ勤勞は物を適用の場所に置くことにして或は此物を彼の方或は此方へ移し動す事なりと」是に由りて之を見れば勤勞は專ら物體を運動する爲に使用する者にして萬物の性と造化自然の作用とに由つて爲し得る者なり試に家屋を築造する勤勞は山より樹木を伐り出して之を挽き之を削り柱となし梁となして組み合せたるに過ぎず人力は只物體を動す而耳にして他に働くの方便を有せざるなり只生産勤勞にして單に此理を有するのみにあらず世間百般の勤勞も亦萬物の性と造化自然の作用によつて勞働する者なれば事の有形無形に論なく苟くも正常の勤勞あらんには甲乙輕重の差なきのみならず皆同一の者たる事を覺悟するを得べし若し有形の勤勞をのみ之を重んじて無形の勤勞を輕ずる時は譬へば家屋を建築するに專ら匠師の功績をのみ賞讃して却て其資材が他年天日の煦育と雨露の潤澤とを以て抽生發育玆に始めて棟梁の材となりたる造化自然の働きを必要ならずとする者あるに至らん公輸氏の意匠も左甚五郎の技術も若し材木なければ施

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

す所なくして止まざる可からず只に施す所なくして止むのみにあらず玆の功妙ある意匠も始より世に興らざるべし材木あつて始めてこれに巧妙ある意匠を施す者あり供にする者あつて始めて偉業を起す者ならん玆棟梁の材即ち事を供にする者を起すは蓋し社會の表面に顯れたる有形の勤勞者にのみ依賴すべきにあらず必ず人の目に立ざる無形の勤勞中に鞠育せられたる者ならざるべからず。

されど純然たる無形の勤勞ある者ハ其働き振りの表面にあらわれず且沈靜緩徐なるが故に名譽を好む人情よりして之を見れば俗に所謂緣の下の力業にひとしく其功績の著しからざるを忌みて悅んでこれに從事する者寡なし故に其勞働は名譽の爲めにあらざる者にても事業を執らんと欲すれば必ず先づ有形の事業に着手せん事を熱中するハ一般の人情にして或は孤兒院興すべし學校設くべし看護婦養ふべし貧病院設くべしと外に向つて贊助を求むる者比々皆これなり其精神は美なりといへども之に協同合力すべき國民一般の志想を省みれバ未だ幼稚にして高尙ある靈樂を味はず眞に其必要を感ぜざる以上ハよしや面從雷同するとも贊助協力する者寡くして事遂に舉らざるに至らん尙巧妙の匠師も材木なくして輪奐の美室を造るのすべなきが如くなるべし方今有志の者が歎息する所亦これに外あらず若し國民の輿論希望にして淸淳なる靈樂を尊び陰德を悅ぶの位置に進ましめばよしや門到戶說せざるも一旦唱道する者あれば擧つて贊成加擔して社會の善業美事を伸張する事を得べし國民をして玆の志想に歸向せしむる者は多くハ沈靜緩徐なる無形勤勞者の働きによつて風化せらるゝ者なりと云ふべし。

冒頭に勤勞は有形無形同一の成蹟たる事を說けり今其實例を示せば先年波斯王が其即位の日に際つて俄然國內の奴隸を解放したる事あり玆の偉大の事業は王が一旦即位の日に於て擧行したる有形の事業なりといへ共この事業は偶然其心中より湧き出したる者にあらず王の乳媼なる英國の婦人某が王を宮中に鞠育したる長の年月王の歸向をして奴隸解放に熱心傾斜せしめたる無形の勤勞が一旦即位の日に當つて外に發表したるあり波斯全國の奴隸を解放せし者ハ王なりといへども王をして玆の事業を爲さしめし者は基督を信ぜし英國の乳媼にして王は其乳媼の無形勤勞を移して以て外に顯せしに過ぎざるなり。

嬌風會の勤勞は純然たる無形の勞働なり其執る所の方針は社

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

會の弊風を一洗し國民をして善に移り惡に遠ざからしめんと欲するにあり天父の恩惠により老婦等會員の目的をして愈意の如く汎く伸張せしむるを得ば餘風必ず國民の歸向を一變するを得べし果して其地位に達せしむるを得るあらば幾多の惡習は芟り除かれて淳良潔白なる良風俗を化成するに至るべし於此乎何事にもあれ善美なる事業をおこす者あれば人々悅んて贊助協同する今日の比にあらざるべし尙今日歐米各國の人民が善をなすに勇みて百般の事業駸々として進歩するが如きに至らん此時に際し始めて蔭にありて無形の勞働をとりたる者の勤勞は其功業を外面に發表するに至るべし之れ老婦等矯風會員の望を屬する眼目なりと云べきなり。

抑も人力は物體を動すの外他に働くの方便を有せずとせば該會の如き無形の勤勞も亦天父自然の攝理に依賴し人類の善性に法り世人の歸向をして趾つて善に傾斜せしむるの外他に働くの方便を有せざるべし基督教は完全なり老婦よりして之を見れば世人の舉つて信ぜざるを怪しむ孤兒院貧病院等は善業なり慈善者よりしてこれを言わしむれば人の盡力せざるをいぶかるなるべし然れど茲の宗教この事業を唱道する者の多きにも係らず未だ社會に著じるしき贊成を得ざる者は何ぞや人民の歸向全く茲に傾斜せざるが故なり善性の人類をして肉の私を棄て率ひて良風俗の内に傾向せしむるは固より微妙の勤勞にして無形勞働者の責任なりと云ふべし抑々人の右に向ふ者をして左に向わしめんと欲せば其好む所に從順して爭か其歸向を改しむる事を得んや飽迄も眞理をとりて反對の地位に立ざる可からざる也他が基督を信ぜずとして信徒なる會員が世人の好む所に阿り其教に法らずして運動せんとする者あらば之れ自ら世人の歸向に習ふ者なり他が名譽を求むればとて其好む所に諂ひ擧れを悅びてこれを導かんとするあらば之れ自ら其歸向を傷ふ者あり未己を曲げて人を直ふする者あるを聞かざるあり。

凡そ善惡共に社會に顯れ來る出來事は偶然に發成せざる事を信ず夫モニカありてヲーガスチンあり孟母ありて子輿子あり西野來嶋の徒の毒を社會に流せしも必これを養育せし原素あるあるべしよしや其結果は意外非常の出來事なり共深く其源因を探求し來れば必無形の内に陶冶せし結果なる事を諒知するを得べし一人一家の間柄すら尙然り況や全天下の廣き人民の多き無形勤勞の功蹟汎く社會に及すに至つては世人の歸向を一變して偉大の事業を續々與起せしむるに至らんされど世

人と反躰の地位に立ちて世人の歸向を傾斜せしめんとするは決して容易の事にあらず其百挫千折の間にありて倦ず失望せずして功蹟を奏せんとせば宜しく其報酬を世人に求めず隱れたるに見給ふ天父に求むるの精神にあらざれば能わざるべし世は名譽を好む故に世の名望を收めんとする者は世の好む所に從つて運動するにあらざれば得る能ず如何ぞ世の好む所に反背して世に容れらるゝ者あらんや容れられずして始めて世人の歸向を傾斜せしめんとするの責任者たるを見るべしされど老婦等の勤勞が果して世人の歸向を傾斜せしむるの功蹟を奏すべきや否に至つては之れを育つる者に一任せざる可からず愍老婦等は之を播く者なり之を獲る者なり之を育つる者は神なり。

○婦人白標倶樂部の性質を演べて世上の一疑問に答ふ

佐々木豐壽

吾儕少數の姉妹相謀り婦人白標倶樂部を設立したるは徒らに私意を行はん爲めにあらず又婦人矯風會より分離したるに非ず又事多きを好みて幾つも同種別名の團結を爲したるにもあらず事玆に及びたるは時勢の止むを得ざるより生じたる結果あり今玆に本部の性質と綱領を述ぶれば　詩篇に曰く「我等の女子は宮のふりにならひて刻みいだしゝ隅の石のごとくならん」是實に白標倶樂部の基礎とする所のものなり即ち之に因て爲す所の事行ふ所の運動は時機により時勢に隨て爲すべきものなれば一定の規則に隨て言述ぶると能はずと雖表面に顯はるゝ所は社交的なり日本婦人の社交に於けるは實に始創の着手にして全國の開明否東洋の進捗と退衰に關係する間接の事業なれば今苟も淸潔を缺くが如きとあらば未來遠久に瘢痕を遺すものにして大に一國の品位に關するとも少なしとあさず。

然れば又內規としては內事部、外事部、風紀部、慈善部の四部に分け置くと雖も規則に拘泥せず規則の奴隷と成らず規則に束縛せられず國家危急の秋にありては夫れが爲に盡力すべし當今政府部內の搖動總理大臣の更迭の如き千古絕無の悲哀と云はざるべからず恐れ多くも　兩陛下は大御心を惱まさるゝ如き時にありて吾白標倶樂部の如きは均しく謹んで祈禱し如何にしてか速かに大御心を安んじ奉つる事あるべきと痛慮す、又政事家に對しては公平なる中立者と成り、政黨甲乙相爭ふて遭難者ある時は甲乙何れを論ぜず遭難者を見舞且慰めんとす、また國家の風俗を害し惡弊を傳播する如きの虞わ

りと思ふ時は大臣と雖恐る事なく誠實之に勸告し、或は國民の代議者其人或は政治家政談家の如き人にして品行不正の徒ありて其任に當らざるものには勸諭するともあるべし、又外國人の吾國或は吾國人を辱かしむ如きを聞かば吾等は應分の力を盡して之が凌辱を雪ぐ事に盡力すべし、又若し萬一戰爭の起る不幸を見る時は吾等は太平和議の使者と成るとを心懸くべし、又は傷者を慰め又看護するともあるべし、又天災地害の如きありて世の疾痛を聞かば何國を問はず本國のみならず外國の事と雖應分の慰問を爲すべし。

然して天時人事皆共に豐穰安穩事なき時にありては吾等は旗を卷き皷を鳴し國家太平を祝すべし又吾儕婦人の責任を務め專ら一家を脩め女子を敎育し幸福なるホームを造るに他念なかるべし然れど啻に一家に籠城して長火鉢とは打死せず友朋相會して世事をも談じべく學者長者を聘して講義をも謹聽すべし質問をも爲すべし美辭法をも脩むべし凡て何くれとなく自意に任すべし然れば即ち本部は徒らに私意を主張するものにあらずして社交的なる文明の事業に盡力せんと欲するものあり然して又矯風會と異りたる所は倶樂部には會頭もなく部長もなくして唯委員あるのみ、又名を好みたるに非ざる證據を述ぶれば本部は世上の諸種何々會と唱ふるものと異り實に會名生じて然る後に運動を始めたる者に非ず全く運動事業及成すべきの事多端ある故に止むを得ず附したる名儀にして所謂有名無實に非ずして有實より名儀を生じたるものなれば有名無實の誹りは免れたるものなり吾儕運動を試みたるは本年三四月の頃より始めたるも倶樂部組織の相談にかゝりたるは六月にして彌々政府に屆出で世に公けに爲したるは九月なり之にても本部は名を好むものに非ざるを證するに足るべし而して部員の如きは甚だ少數なれども誠實に社交を重んじ世を深愛する同主義の人にして異主義の人あらざれば反對百出するの煩らひなく一人發議して滿座益々親愛を生じ些少の紛擾なきは同主義の人々の成立に基づく幸福なるべし、然れども殊更に部員の小數を望むものに非ず大數なれば大數の運動を成し得べければ深愛契心の姉妹は幸に加入して吾儕の足らざる所を助けられん事を乞ふ是獨り本部の爲めに願ふにあらず東洋の婦女一般の躰面よりして愛姉の助力を希ふのみ。

夫れ婦人白標倶樂部の性質運動は此の如く、災害の慰問者、平和の代議者、一家のホーム製造者にして決して矯風會の分離に非ざるなり世の人 幸に疑を抱くと勿れ。

批評

○國華

神美道人

國華第一號出でたり、從來此の如く大なる、美なる、周密なる、骨折られたる、而して其の價の隨つて高價なる雜誌は未だ嘗てあらざりしなり。本號には國華の主旨、國華發兌に付ての九鬼隆一氏祝詞、フエノロサ氏浮世繪史考、ビゲロー氏日本工藝家の注意、岡倉覺三氏圓山應擧傳、川崎千虎氏本邦武裝沿革考、黑川眞賴氏東大寺正倉院の話、今泉雄作氏茶室考、其他狩野正信畧傳、無著菩薩像傳等、及び五葉の精細巧麗なる古畫圖を挿めり。

此雜誌の理想とする所ろ全卷の終始に一轍すると、及び其理想を發揮せんとするの盡力淺からざるに感ずべし、先づ國華と題する發行の主旨書は蓋し九鬼隆一氏の文章ならん、雄健にして慷慨、尙美にして高逸する所ろ一幅の壯大なる畫圖に似たり。曰く美術は國の精華、國民の尊敬欽慕愛重企望する所の意象觀念渾化凝結して形相を成したるもの也と、曰く今日我國に於ては美術保護奬勵の道未だ備わらずと、曰く本邦畵相の靈妙は固より間然する所ろなく筆意の飛動墨痕の深潤着色の融渾以て天下の特技とするに足りと云へども、未だ應用の區域廣まらず、日新の智識を利用するに至らず、現に歷史畫に於ける如き即はち尤も甚はだしきもの也と、曰く彫刻の如き、建築の法式の如き、美術工藝の如き、未だ開進の氣運に伴ふて發達するの方針に入らずと、曰く其の美醜善惡を正評し、美術敎育を擴張する諸方便の如き未だ行れずと、於此乎美術檀上に此の國華の旗標を立て、日本美術をして其特質に由て進化せしめ、且つ日本美術の眞相を保持せんと欲すと。

フエノロサ氏は、浮世畫が人民生活の實相を寫す唯一特別の畫派にあらずして日本畫流の中ち之よりも他に一層高尙に且つ一層眞實に人情風俗を寫し出すものあるを辨ぜんとして、第十二世紀第十三世紀の頃に於ける土佐派諸大家が毫も描出の是非優劣に就きて畏懼せず光影其他の表樣に關する學理的の思想に束縛せられず快然筆を下し能く人間の動作情操を寫出して一點の欠を遺さゞりしとを非常に賞賛し、此の精神筆力第十四世紀第十五世紀に至て榮極一轉し、光信の時に至りて進歩滯ふり派運固着し其死法を守りて活動の精神なきれ恰かもバイザンチン畫の如くなりし、故に以后二百余年は支那宋代の感化輸入して眞正の日本的繪畫あらず、如此く土佐派

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

も狩野派の衰ろへて則はち樂山を出し、又平を出し、以て後世浮世畫を起すの元素となれりと。其論未だ畢らずと云へども、蓋し古土佐派の繪を以て眞世の浮世畫とし、後世の浮世畫を以て之より出でたる一變化となし、後世浮世畫の決して古土佐畫に及ばざるを證し、以て日本眞正高尚の畫は此にあらずして彼に在るを論決するものゝ如し。之れ即はち裏面より「國華」の主旨を辨ずるもの也。

岡倉覺三氏は、應擧の傳を叙して其小品に多きは探幽の反動に出でしとを辨じ、應擧が實物を寫して能く微細を盡したるの精力を賞したり、之れ表面より「國華」の主旨を辨ずるもの也。

其他に於て尤も注目すべきは、ビゲロー氏が日本工藝家の爲に注意を與へ、外國輸出品を作るものは美と云へるとに實用の考を加ふべし、即はち日本の美は其基礎に實用器械的を要し西洋の實物的文明も又日本の美を以て混和せられんとを求むと云ふ、之れ側面より「國華」の主旨を辨ずるもの也。

次に有益あるものゝ一は、黒川氏正倉院の話あり、今泉氏が茶室考、川崎氏が武裝沿革考ともに工藝者を益すると深し、此等は皆な來歴的に「國華」の主旨を辨ずるもの也。

插畫に至つては古人の彫刻、及び揮毫を今更ら批評すべきにあらず、但だ其の彫刻製版の此如く巧妙を極むるとに付きては歎賛の外なし。

一言するに國華の主旨は國粹保存派美術者の思想を現はすにあり、而して其の改進的の象に富むと多くして、一派の國粹保存論者に普通する頑僻の少なきとは甚はだ賀すべし。夫れ油畫、水色畫、は繪畫術の進歩したるものなり、此の進歩したる方法によりて日本人固有の美術思想を發現すると亦極めて願わし、而して此の如き新方法を入るゝとが國粹を滅却するとありと考ふるの陋見に至りては固より吾人の感服すると能はざるものありと云へども、日本畫の美粹を保存せんとするの熱心に至ては固より亦た同意する所ろ也、故に如此き雜誌が日本新流の畫（西洋畫と云はず）勃興する間だに立ち、能く古來の美粹を保護し、代表し、廣告するに至つては、感喜切ならざるとなし。

終りに臨み此雜誌に惜しむ所ろは、哲學的批評の眼識を尙ほ現はさゞるの一事なり、凡そ西洋畫を主張せんとするものも、日本畫を辨護せんとするものも、只だ其の好僻する所ろを好僻し獨り得意して世に誇ると云へども其道を擴張するに効

あると薄し、宜しく精細なる批評を施し、東西方今の逸品に付きて優劣を比較審査し、且つ其の比較審査を局外の人にも分明なる規範によりて論評すべし。「國華」の如き盖し追々に斯る論評を載せらるゝとならんが、若し畫人の傳を叙せば、啻に其の一生の經歷を記するのみならず、併せて其神情を穿つべし、彼は何に由て如此き美術思想を得たりや、當時の世情は果して彼に何程の關係を有したりしや、彼が繪畫彫刻の理想、別言すれば彼が美術思想を刺衝しインスピレートしたるものは何の點にありしや、彼が道德及び品行は如何なりしや、彼が製作は世人及び世躰に如何の關係ありしや等をも論述すべし、如此き批評的の眼識特に必要なり、「國華」の如き非常の骨折を以て成る雜誌は如此き十分なる論說を載するに尤も適當なるものと思ふ、故に吾人は之を要求す。

國華既に出でたり、其出でたると既に大に注目すべし、其の世人に何如に遇待せらるゝか、之に對する西洋來新流畫派の運動は何如にあるべきか、而して此の兩派の日本に適存發達するの割合何如にてあるべきかは、向后更らに大に注目すべき所ろの者なり。

吾人は此雜誌の美術社界に關係する斯く至大なるの故のみならず、併せて其の高價にして之を見得る人の少なからんを思ひ、殊更らに長々しく批評したり、然れども此れ尙ほ言ひたしと思ふとの一部分に過ぎず。

○南翠外史の「隱君子」　　紐橋老人

近頃珍らしき政事的の小說、天晴ヂスレリーの神髓を得られしものと覺ふ。よしやヂスレリーなりとてかくまでに好文字に富むべき（と云つて洋學者を氣取る譯にてもなし）

二十一頁に、

「是見夫人は毎日一回は必らず此の應接所に入りて客なきに佛語を以て何事かを獨り語り獨り答ふるといへり」

是は表面より見れば何の事もなけれど人情は充分に穿てるが如し。

其外凡て二十回一言一句として妙ならざるはなし。脚色と云ひ結構と云ひ、明治の文界に稀に見る處なり。

此頃の小說はポチ〳〵でごまかしたもので時代なくれの老人には分らぬ處多し。南翠先生は獨り時流に媚びず、老人には最も分つて面白し、江戸とした處がさすが見識。

殊に結末の如き此頃の小說家先生は大抵ぼんやりとし或はプツつりと思切つた筆で止めて得意とならるゝに（老人には分らず至極迷惑）さすがに南翠先生は二夫婦で目出たし〳〵と局を結ばれたりかく申す江戸氣質の老人は大滿足。

此篇には主人公なき樣なり、若い先生方のお話では主人公のなき小說をサカレーとか云ふ人特に作り初められしは尤も斬新なりとて喝采されしとか。丁度それと全樣に此「隱君子」は日本で初めてとは云ひがたけれど兎にかく斬新。殊更篇中の人物は實在名士の寫眞と聞けば是だけでも面白し。

第八回は壓卷なり、三十石の光景見るが如し。敬服。

老人の目に止りしは是れだけ。近來珍らしき好著述。共醉居士の「外務大臣」以來のものと存ず。

雜錄

○親の遺傳　輝雄

凡そ人の子たるもの皆生を父母に得たれば其體格姿容情性氣風に於いて能く之に肖似するは一般の法則にして世人の普ねく識る所なり然ども父母其特性を遺傳するは兒の男なると女なるとに因つて各々其量を殊にするの細則に至つては識者幾んど罕なるべし今吾聞得たるまゝを記さんに兒若し女ならば其頭骨胸部總躰及體の上部は大に父に類し下部は大に母に類す若し男ならば全く之に反す故に男親若し慧敏英聰ならば其娘又慧敏英聰なるべく女親若し活潑伶俐ならば其兒童又活潑伶俐なるべし之を史に徴するに實例甚だ多し婦德貞操を以て古代に灼々たるグラツチの母コルチリアは豪雄無双なるシ、ピチの娘なり。殘忍酷烈なる羅帝カリグラは奸惡なる毒婦を生めり。セイントパルソロミユーに汚名を止め永世に亘つて猶其罪障を滅する能はざるカザリンは暴虐なる父ロレンゾを有てり。淫亂放恣なるボルギアスは人を毒殺せんとして酒量を誤り反つて自から毒死したる法王アレキサンドル第六世の娘なり。アリート、ヒパチア、及デマルデサンドの理想力に富めるは其父皆哲學者なりしによるならん。東亞細亞を擧げて幷呑し進んで歐洲を席卷せんとせし英傑ゲンギスカンは母の武畧を繼ぎたるなり。又十四世紀の勇將タメルランは遙かにゲンギスカンの娘より其血統を引くと云ふ。詩人バルンス、ジヨンソン、ゴエテ、スコツト、バイロン、ラマルチンは皆意匠精巧なる母より出で音曲の泰斗モザートは其始め一曲を母より習得せりと由是觀之稍遺傳說の眞當なるを知るべし然れども吾人は生物學上他の學說の如く必らずしもこれに例外なきを證する能はず唯識者の見聞に照して判斷を乞ふのみ。

○母の心持と其乳汁の關係　十一寸月人

母の嬰兒に於ける其關係至大にして胎内に在る時の如く生れて懷裏に乳房を弄するに於ても母の健康如何は其子の運命を卜する要件なり就中精神錯亂感情激動の如きは其尤も有害なるものにして啻に乳汁を減ずるのみならず其質を有毒ならしめて間々不虞の死を來たすことありと云ふ彼の執拗忿怒悲歎悔恨恐懼戰慄等は婦人に在つて尤も懼るべきものにして此等の感動劇しく胃中を攪亂する際兒に乳を與ふれば爲めに腹痛下痢熱病等を繼發し終に之を死せしめたる例證尠からず。カーペンター氏著述の生理學中に載するもの記臆すべきもの多し一婦あり其母より凶報を得て痛く悲みけるが嬰兒に乳を吞

せんとて其口に乳房を銜ませながら使者と語るうち小兒は異狀を現はし悶躁苦𢚩して終に絶命せり。又一婦人あり盜難に遭ひて悉とく其財産を失ひ心緒錯亂しけるとき兒に乳を與へたるに始めは否んで呑まざりしが強いて之れに呑ましめたるに忽ち吐瀉を催し數時間后再たび他の乳頭を銜ませたれば甚だしく搐搦し百方之を救はんとしたれども終に及ばざりしと云ふ。又一婦人多勢の子供を産みたるが其中末子尤も壯健にして且つ知己の小兒に能く肖似せりとて撫育怠らざりしが或日知己の小兒變死せりと云ふを聞きて心中己も亦愛兒を失わんかと迷想し通宵苦慮して眠らず翌朝小兒を抱きて乳を呑ましめ靜かに搖籃に臥さしめて吾室に皈りけるが暫くして啼聲を聞きたれば是れ目醒めて母を喚ぶならんと思ひつゝ戸を開いて內に入れば豈料らんや苦喚牽攣して今將さに死せんとするにぞ愕いて醫士の許へ人を馳せたれど其功なく五分時を經て死せりと。又一工匠あり偶ま兵卒を宿せしが劇論の末竟に爭闘となり兵卒は劍を拔いて立廻はりたれば宿主は之れを支ふると能はず退縮して牆壁に身を屈め將さに一撃の下に倒れんとしたれば此時迄戰々恐怖して片隅に潜匿したる妻は良人の生命毛髮の間に逼りたるを見て忽ち躍出し振擧げたる劍を潜り之を奪取り碎折して庭に投じたり漸くにして爭闘鎭りたれば搖籃に餘念なく玩物を弄して戲むるゝ嬰兒を抱き上げ乳を呑ましむるに遽かに動悸を作し呼吸次第に急迫して見る間に顏色を變じ母の懷裏に死したりと以上數例を見ても母の感動乳汁の質を變ずる實に懼るべきを知る豈踈そかに觀過し去るの理あらんや。

○俳諧の諸派　　其川子

天文の頃伊勢の荒木田守武俳諧に長じて大に是を衒ふ、其後洛の松永貞德頗る其道に高妙にして再び是を振起したり、是を古風と云ふ。延寶天和の頃大阪の宗因一派の檀林風を初め江戸の松意といへるもの其調を喜んで是を迎へ終に江戸檀林派を創開し大阪に於ては西鶴由平等盛んに師の宗因風を廣め洛には總本寺高政合躰して三都ともに檀林風大に行はれ粧飾に走りたる弊は殆んど海內に及ぼしければ芭蕉忽然として其間に起り、貞德の古風を復して其勢は又檀林を仆せり。芭蕉沒後其角は更に一派を出して較や卑俚に陷り嵐雪は一に師の遺風を守り終に無味となれり。近き頃梅室蒼虬起り芭蕉の古を學びしが終に功を全ふする事能はざりき。今の雪門は殆んど狂調となり今の正風は恰も白湯を飮むが如し。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

○近躰文章三宗

篁村宗

篁村先生の輕快なる一派の文章は今の文學界を風靡して終に嚴格ある民友記者をして其時事欄内に篁村宗なる題目を設けしめたり、篁村先生も一統の文傑といふべし。さは云へ、民友記者は小說歷史に詳しからで漫りに篁村先生を過褒せしにあらざるなからんか。先生の文は其碩に出て少しく異なる處ありと雖も文格はまづ其碩なれば篁村宗といふ新派を開くを得ざるなり。余は常に先生の文を喜ぶものなれど先生を以て江島屋派の御宗師樣と呼ぶを欲せず、先生の文章今の西洋がる時代に珍らしければ大に喝采を來したるは「むら竹」の賣高「商人氣質」の評判にても知らるれど未だ宗派と目せらるゝほどの御弟子もなき樣なり、余の知る處にて先生の文章に較や似たるもの南翠先生の「臥待月」及道の記二三篇あるのみ。一人一風の文章を作りて宗派と云ふべくんば今の文章界に紅葉宗も露伴宗もあるを如何。

思軒宗

もし多數の信仰者あるをもて云へば將に熱焔あるは思軒宗なり。南翠先生の「朧月夜」落花漂絮先生の「機姫物語」及落合先生の「悲哀」等いづれも多少の相違あれど文格は宛然たる思軒森田文藏先生なり。

徳富宗及志賀宗

もし議論文をもて曰へば一世を風靡せしは徳富猪一郎及志賀重昂先生か。徳富先生の氣焔ある文章行はれて世間の文章概ね冗漫に流れ、志賀先生の多情なる文章行はれて世間の文章概ね韵をふまぬまでになれり。殊に「借問す」「語を寄す」等の新熟語を用ふる人の多くなりしこそおかしけれ。

（一）ビンの口を開かず、左りとて割りもせず、其まゝコルクを取りて中の飲物を飲む法如何ん。

（二）寺の屋根に竹を植え、寺の高さと竹の高さとに相違なしと云ふ、其理解何如ん。

○偏癖文章論者　　花竹堂

世に國文學者なるものあり、其偏固なるや苟りにも源氏物語振ならざれば文章ならずと云ひ、萬葉風……甚しきは定家樣ならざれば和歌ならずと云ふて頑然其說を守りて屈せず、他の一派を崇めたる或は範圍外に立つものを罵倒す。紫式部時代の文學は實に日本文學の最も耀きたるものなれば是を尊奉するは强ち無理ならねども、何ぞや物語振のみを文章と曰はん。彼の漢學者が先秦文章の美を喋々して只管其古きに倣はんとするに等しく文章を知つて知らぬものなり。文章は先秦

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

にも唐宋にも限らずして意通ずれば足れるものあれ。其美あると美ならざるとは歴朝各々嗜好を異にすれば一を尊て一を賤しむべからず。我が物語振は頗る優美にして濃やかなれども是計が我國の文學のみかは。源氏物語の前には源氏物語なく太平記の前には太平記なかりしがされはとていづれを珍らしとて偏癖の評を下すべきものならんや。

今言文一致なる文躰あり。圓朝氏の牡丹燈籠其摸型を作りてにわかに最も進歩したる美妙齋二葉亭の兩氏とあり、一時は殆んど小說文躰を一變せんず勢をなせしが、是れと共に口を極めて罵詈する人多きこそ怪しけれ。言文一致は元より此二三年前より發生したるなれば充分よ進歩したるとも云ひがたく、殊更日本の古きをのみ讀みたる目には珍らしければ是を怪しむも是をいぶかるも不思義ならねど何故に罵詈して文界の惡魔とまで云ふや。よし美妙齋二葉亭兩氏の文を惡しとするもこは言文一致其れ自身の罪にはあらずかし。言文一致とても一派の文躰にて又別に妙味もあれば何とて罵りて文學外のものとあさんや。彼も一派なり是も一派なり。もし一派の主義を墨守して他を罵らば恐らくは識者の笑を買はん。彼の國文學者又は漢文學者が常に停滯して昔に及ばざるを嘆ずるは畢竟昔を尊崇するの餘りに必ずしも物語振或は先秦ならざれば文章ならずと考へ、あくまでも是に似せんとするより終に其範圍を脫せざる固陋の致す處なり。源氏でも太平記でも狂言でも謠曲でも芭蕉でも西鶴でも馬琴でも三馬でも言文一致でも雅俗折衷でも悉く文章ならざるはなし。彼も是も一派あればいづれを襃しいづれを貶すべけんや。

余は元祿文學を愛ずるものなり、日本文學の極粹は元祿前後にありと信ずるものなり。もし明ら樣に余の本心を打明けしめば言文一致は余の最も嫌ふ處なれど、是も一派の文躰なりと思へば何をか罵る事あらん、何をか退くる事あらん。今の世――他の國文學者或は元祿文學尊奉者が言文一致を罵るこそ心得ぬ事なれ。笑ふべし……固陋偏癖。

○肺勞の養生法

仁田桂次郎

余は明治十年以來肺勞に罹り殆ど十三年間惱み居るが些か實驗せし所あり且つ肺勞治論など云ふ書を著述せしを以て時々同病者の質問を受くる故に今ま肺勞養生法の大意を左に記るさん。

肺勞の養生に二種あり一は組織の消耗を防ぐと一は營養を加へるとなり組織の消耗を防ぐには第一發熱を豫防せざるべからず若し苟も發熱あれば脂肪及び肉を燒き盡くすべしされば平生發熱の豫防に注意すると最も肝要なり則ち每日午後三時頃に檢溫器を以て左の腋の下にて檢溫すべし體溫攝氏の三十七度なれば平溫なり三十七度半までは宜けれども三十七度六七分にならば少しく注意すべし三十八度以上になれば衣服を暖にし外出せずして穩に家內に居るべし聲音を發すべからず

暴食すべからず心身を過勞すべからず藥にキナ皮二匁より四匁を水三合に煎出せしを一日三回に用ゆれば解熱の効あり若し發熱甚しくして惡寒あれば鹽酸キニー子八瓦より十二瓦を發熱前に用ゆべし例へば正午に三十八度半の發熱すれば朝六時に四瓦同十時に四瓦を用ゆべしされども胃の不消化の爲めに發せし熱なればキナ皮キニー子を用ゆれば反て害あり胃の不消化より生ずる熱は舌に苔を生じ或は舌乾き荒れ頭痛して食欲なし斯かる塲合には成丈け食量を減じ堅き物、强はき物を食せず酒類、茗茄非、牛肉菓子なぞを止め專ら水、乳汁、レモン水、氷、卵の生或は半熟ソップ等を宜しとす總べて甘き物や辛き物や鹹辛き物は胃を刺激するが弱くするの害あり胃の不消化に原因する發熱ならば此く食物の養生を爲さば二日を待たずして解熱すべしすべて藥は胃を害する故に此かる塲合には反て熱を激する者なり、されば胃より生ずる熱ならば一時一切藥を中止するを宜しとすキニー子鐵佐疾藥も須く止むべし。

發熱の次ぎには大發汗を害ありとす特に盜汗を惡しゝとす發汗には衣服を薄くすると鹽水に浸せし手拭にて身を拭ふ等を宜しとす發熱すれば後にて發汗する故に發汗を防げば發汗も自ら治せん但し發汗には空腹にするを惡しゝとす熱き湯に浴すべからず藥はキニー子、鐵、肝油の如き强壯藥を宜しとす。

痰咳嗽には衣服を暖にし外出して風に當らず冷氣濕氣に觸れず烟草を廢し一切不潔の空氣を避くべし塵埃、烟、濕氣は特に害あるを以て呼吸器を着けて之を防ぐべし別して雨ふる日風ある日寒き日には外出するを勿れ特に冬は早朝と夕刻に外出するを勿れ成丈け服藥せざるを宜しとす止むを得ざれば吐根六瓦遠志三十瓦を熱湯三勺に浸出し鴉砂糖二十滴を加へて一日三回に用ゆべし咳嗽に耐へ難たければモルヒ子八分瓦を頓服すべし。

咯血あれば食物を減じ乳汁ソップ、等のみを用ひ平臥し沈默して氣を鎭め且つ一切酒、茗、茄非、等を止め氷或は水袋にて胸を冷すべしサスレバ二三日に全く止血すべし右の養生にて大に組織の消耗を防ぎ稍や衰弱を止むべしされども更に一歩を進め營養を加ふるに非ざれば已でに來りし衰弱を補ひ身躰を强壯にするを能はず故に健胃を專とし務めて滋養物を食すべし是に於て歟運動必要にして靜なる歩行、穩なる乘車は最も益ありて食物の消化を助くされども咯血ある症には運動は危しとす健胃藥にはペプシ子十瓦一日三回食時に分用すべし酸敗液あれば重曹十瓦より一匁を服すべし不消化物を一切禁じ菓子を止むべし食後に滋菓子一個、煎餅三四枚位は宜ろしけれども多く食するを勿れ乳汁、卵、牛肉、羊牛、魚肉、雞肉、パン、ソップ等交換して好に應じて食すべし同じ物を續けて食し胃に厭きを生ずるは宜しからず野菜も時々少しは食すべし米、芋、葛粉、豆腐、等を折々は少し宛取代へて用ゆべしすべて蛋白質と脂肪質の食物を宜しとす胃を害して發熱せざるを度として成丈け滋養物を食すべし乳汁を多く飲めば下痢を生ずるなれば二三時を隔てゝ一度に五勺位宛用ひ一日二合以上を要す牛肉は多き時は一日一斤少き時は四半斤用ゆべしソップは二合位まで用ひて宜ろし其の他の者は隨意適宜に食して可なり服藥は一切胃を害し營養を妨ぐる故に善からざれど唯だ肝油のみは用ゆべしこれ脂肪を補ふが爲めなり飴は小量に用ゆればマルチ子酸を含む故に澱粉質の消化を進むれども多量なれば食欲を害す鐵は胃を害する故に胃の弱き時には反て惡し。

下痢は營養を妨げ衰弱を促すが故に最も害あり下痢の害あるとは發熱と匹敵すべしされば苟も下痢あらば最も食物に注意し肝油、鐵、乳汁、脂肪類を止め水を多く飲まずして衣服を暖にし鹽湯に腰湯すべしパン、粥、ソップ等を食して菓實、野菜類なば多食するを勿れ惡し空腹なるは宜しけれども甚しく空腹にする時は衰弱を促すが故に適宜に刺激なき物を食すべし甘き物、辛き物、酸き物等は害あり藥は用いざるを宜しとす若し下痢甚しければ阿片丁幾十五滴ゴム漿三匁單舍一匁一日三回分服すべし或は單寧酸五瓦宛二時間毎に用ゆべし。

すべて藥は利よりも害を爲すこと動もすれば多きが故に大抵は服藥せずして自然の療機に任すを宜しとす唯だ巳むを得ざる時のみ暫く服藥すべし慢性の症に於ては持長の服藥は最も忌むべし。

右の外に通常醫者の言ひ及ばざる養生法あり是れ心の養生なり苟も心を鎭め氣を養ひ樂んで悠々と日を消するに非ればさても養生には成らぬなり決して憂ひ悲むとなく規則正しく生活するを肝要なり朝起きる時、夜眠る時、仕事の時間、食事の時刻、運動の量等一定して規則正しくすべし是れ皆な心の養生となる者なりすべて不規則、不順序は心を不快にする者なり靜なる仕事と穩なる散歩は最も氣を鎭むるの効あり靜に一二時間書見すれば心を安じ眠を催すの益あり不眠家は之を試むべし書見は憂苦を忘れ妄想を散ぜしむるが故に少しづゝ樂ですれば最も心の養生となる者なり世人は肺勞を讀書より生ずる樣に云へど否らず人は巳でに心あり之を用ゆるに於て何の不養生歟之れあらん是れ天の命じ且つ定め玉ふ所なり唯だ其の時と設とを適宜にすべし發熱ある時、咯血ある時、疲勞せる時、心に好まざる時等は必ず書見するを勿れ尙は心の養生に付ては聊か愚案あり他日管見を述ぶべし。

小生の住所は本郷弓町一丁目廿九番地中村ちか方なり肺勞の御方若し養生法を御質問ならば不及ながら申上べし。

○談話の珠、三點

產の時日　產の時を知るに色々法あれど當にならず、概して出產は受精の后ち二百八十日日なれば、之を元として勘定するを尤も確かなりとす、其勘定の仕方は、最后の月役ありし月日より三月目のあとの月日に繰戻り、之に七日を加へたる當日を出產の日と知る也。例せば一月十四日に最終の月役あらんには、之より三月を繰戻りて十月十四日と知り、之に七日を加へ、即はち十月の廿一日を產日なりと知ると也。

實用實用　物の役に立ぬは宜しからず、論語を讀みて論語を知らぬなど言語同斷也。然し餘り万事實用〳〵とのみ思ふときは又誤まるとあり、ベーコンは古への大哲學者にて、物事を深く考ふる人なりしが、或る時雪降り皚々たるを見て、之が爐ならばと思附き、如何にかして爐に代ゆる法あらんと思案して雪中に佇立長考したり、之により風を引き遂に果敢なく死せしと也。

癖　公卿は笏を持ち、女は持病の癖を持つ、此の癖は別段有がたくなきものにて、惣じて我儘又は氣の狹きより發る、而して癖は傳染する病にて癖を起せし女を見れば又見たる婦人が癖を起す也。或女學校に癖を起せし六人の女生徒あり、醫師來診し、火箸を眞赤に熱し、如何に方々、此中にて第一に癖を起す人あらば其セナを之にて撫で申さんと云ふに、皆愕然として既に癖が直りしと也。

(一)○の答、　コルクを中へつき込みて出すなり。
(二)○の答、　寺の上に竹を植れば、等しき也。

小說

○すみれ

第三回　つぼみの時

若松しづ

此處は都を去る二十里餘、足利在にて維新前までは長者の名高かりし眞野の家敷、こんもりとした杉の林を後ろに建列ねし、數ぞまへの土藏は、薄暗き木立に較べ合せて目ばゆきほど白く、殊にあたりを拂つての一と搆なれば、近村までの眼印とて、道を計る者は必ず眞野長者より何里何町と云ふが常ありしとか。

頃は十月の末とおぼ敷、小春の日和うらゝかに、きのふけふチラホラほころび初めし、桃李の返り咲も、物珍敷、うす紅よせる茶山花の見ごとに咲亂たるを、心無が秋風の一とゆすり……ヒラ〳〵と、今まで可愛の姿を寫せし池の面に散りかゝるを、心ありげに眺めながら、庭にそゞろあるきする一人の壯年あり、兎角する中袖垣の彼方よりおさなら敷一と聲、

正人さん。

ふり返る壯年の方へ、はや細足に進みよる十二三の小女、ぱつちりした眼で、まぢめ顏に、丈高き壯年を見上ながら、一層潜み聲に、

正人さん、鳥渡來て頂だいよ、だつてわたしには中々折ないんですもの、あの菊が。

オヤすみれさん、いつの間にこゝへ來てゐました?、わたしはだれもゐない積りでゐたもんだから、菊の精にでも呼止られたかと思つて、ビックリしたの。

いゝからどふぞ早く來て折つて頂だいよ、おつかさまがいまにお眼覺になると、いけないから。

ほんとうによく氣の着いたこと、そふいへば、切角きれいに咲揃つたのが、おつかさんのほうからハちつとも見へませんチイ。

小女の心には、花壇ハよし如何ほどあらすとも、思入れ美ごとな生花して、病疲れたる母の顔にチヨツトなりと喜悦の笑が見度く、あれこれと頻りに忍り好して、間もなく壯年の手には、白黄樺の見事の花一杯になりたれバ、

すみさん、モウ澤山でせうよ、まだ心殘がありそうデスチ。

ア、正人さん、ちよつと此ご所車といふのを、たつたモ一本いれさせて頂だい。

よしよし、然し、モウこれ切ですよ、そうして、こんど取替る時にまた、變つたのになさい、サア一處に行て生ませう。

いひながら、おも屋の方へ來かゝる二人を目がけて、此家の下女、こゝらにはめづら敷しとやかに、

アノご新さまが、櫻井さまに鳥渡おめにかゝり度からと、おつしやいますから……。

聞て、小女は失望がほ、

オヤ困つたチイ、モウお眼覺?、わたしが居なかつたから、さぞ變にお思なすつたろうチ、じやわ、わたしも直ぐ行う。

イ、ヘナニ、それでもすみれが居ないが、久しぶりで庭へでも出たのだろう、もしそこいらにゐたら、好い天氣だから、ゆつくりお遊びと いつておくれと、おつしやいました。

ソウ、そんなならチ、おまへ正人さんの持ておいでなさる花を、花立へさしてチ、おつかさまのご覽なさり好い處へおいて上ておくれよ、いゝかへ?、わたしハ、ひよつこが、どんなに大きくなつたか見てくるから。

年に似合ず怜悧なれど、流石ハ子供、日夜母の看護に餘念なき樣でも、折々氣がゝりになりたる雛を見たさに、いそいそ走行く。おさな振を見送りながら、下女に花を渡して、病人の寐間なる南向の坐敷へ來れば、二枚折の屏風を後へ廻し、床に起直りたる婦人、長わづらひにいたく疲れたれど、今の小女とは誰が見ても親子、

おばさん、今朝はご氣分は如何?、

と手をつかへる壯年を、たいぎそうに見つめ、

ナニ別段のことはありませんよ、今少しまどろみましたから心もちが好くなりましたよ、正さん此間からチ、あんまり弱らない内に、お前さんに一つとつくりと話しをして、改め

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

てお願申度と思つてましたんですが、迷惑でも聞いて下さい升か。
承つて置て宜い事なら何んでもお心置なく、仰つて下さい、私の力の及ぶ丈は、お心の休まる様に取計らいませう、しかしまだ、御全快の望が無なつたと申ではなし……、いふをさへぎり、
それはわたしだつても、今死ぬに殘惜い事がないといへば、どふやら痩我慢、たつた一人の娘の生立も見ないで行のはどふ考へても、殘念に相違ありません、しかし正さん、人は覺悟する時分には決して未練があつてはなり升まい、まだすみれには、何とも云ませんが昨日醫者に都合も有升からつて、強て意見を聞て見升たら、そんなら申すが、あと一と月は覺束ないといふ事です。愁嘆顔にあらわれて、さしうつむく正人を見やり、猶言葉をつぎ、
それで此上は、モウおまへさん許りが賴です、おまへさんが丁度すみれの今の年に、お袋が死んで、孤になつたのをうちへ引取、東京へ修業に遣るまで、膝下へ置たものを實は又從子といふ遠い緣でも、決して人の子とは思ひませんですから、これからは矢張孤になるあれを、どふぞ妹とも子とも思つて、面倒見てやつて下さい。終の一句は嗚咽聲、しばしは互に顏を得上ざりしが、婦人は思直してあとをつぎ、
それからあの子は、少さい時から不思議に學問が好でしたから、大きくなつたらどふか手ばなして、東京で修業をさせ度と、遠から心がけてゐたのです、ですから、わたしがない後も、矢張り是非そうさせて下さい、そうかと云ておまへさんもまだ若いのに、若樅の世話迄は迷惑にちがいないから、わたしも考へて、幸ひ里方で不仕合が續て、一人者でゐる妹があるから、あれに云ふくめて、一切の世話をさせる積りです、おまへさんも、其中には出世しなすつて、お新婦さんも出來るでせうから、どふぞ共にあれの身を任せる人の出來るまで、見て遣つて下さいよ、これが一生のおねがいです、正さんキツト賴みましたよ。
これより十五日を過ざるに、母はすみれの手を右に、正人の手を左に持しまゝ、靜かに永眠しぬ。すみれにとりては、これこそ憂世のうきの味ひ初め、世に二人となき慈母を失ひて、（父は其幼き時に世を去りたり）驚きも悲しみも、少さき心に滿餘る許りにて、柔和くすかし慰むる正人の胸に依りては、

泣寐りするさへも度々なりしとか。かくて取片着萬端よりして、すみれが彼の里方の婦人共々東京八町堀邊に住居を定むる迄、正人の斗らひにて無事に濟み、程なくすみれは正人の指圖に從ひ、ある和英の學校に通學し、正人は續いて近隣の塾舎に醫學專門を修めぬ。

しかして、此小女の涙を春雨にして、兩人の運命に何等の花を咲しめしか、はた時ならぬ山おろしの誘ひ來るなかりしか、我等次回に於て是を見ん。

寄書

○池袋清風子の歌

雲峯子

左の歌は京都なる池袋清風大人が此夏備前牛窓に暑を避けられし節ものせられたるなりき過る日大人より手紙の端に見えたり余はいさ面白く感せしまゝ同好の士女の御一覽にもと貴社に投す、今日にもし今はゞ幸甚し。

七月卅一日の夕大坂にて病の苦しき折身の上はさ歎かれ難波橋の上より西の空をながめて

うき雲に消えなんとする三日月の影ばかりなる我世なにせん

八月廿一日牛窓にて

なき魂のほろびが島に月ふけて波の音すこし清琴のせさ

廿四日岡山にて折にふれたる

しるべなき旅の宿りにうれしきは教の友のさへるなりけり

赤岡山の里の西なる田中の道を行はさ

都にも今はかへらん秋風のふきこそ渡れ岡山の里

岡山の山田のいな葉ふく風の身にしむ時は都こひしも

同夕舟の上にて

吉備川の流の末にうかびけり兒島の海の秋の夜の月

八月廿五日三番といへる旅のやどりにて

浮出まつ兒島の海の夕まぐれ野分の雲も立まよひつゝ

舊八月十五日夜加茂川の樓にて

いさゝ川月の形はやさられさきらめく波のかげのさやけさ

月かげは雲と見るまて加茂川の川つら遠く更けし夜半哉

○今日の作文

菫菊野史

今日の文學は舊法度を免れて新法度に就き舊範圍を出でゝ新範圍に入る變遷推移の際なれば敢て一定せず新奇百出競て才華を衒ふ此時に當り新に文章を學ばんとする者は何れの方向を取り何なる書物を以て模範と爲すべき乎頗る其の取捨に惑ふべし吾輩も亦た同感にして惑者の一人なるが今ま試に聊か管見を吐露して同感の士に質し且つ大方君子の教を請はんとす。

言文一致躰の文章を學ぶには圓朝の話を筆記せしもの又は名家の演説集を讀むべし此等に熟せし上は淨瑠璃、馬琴の著作、百人一首、古今集ナド學び依田百川氏、福澤諭吉氏、矢野文雄氏、等の文章を讀むべし此くすれば一應時文を習得すべし他の漢文躰や洋文躰の文章は成丈け務避しさして宜しからん成丈け分り易く讀み易き文章を最初に學び漸々六ヶ敷文章に移るべし餘りシャレたる文章は初學のものには適當せざらん長くして達者なる國民の友の文の如き、敏くしてシャレたる美妙齋の文の如きは頗る學び難たからんサレバ平易の文を以て階梯と爲すに若かじ。

右に記せし平易の文章に熟せし上は古事記、日本史記、源平盛衰記、太平記、新井白石の和文、賴山陽の漢文、文章軌範、唐宋八大家文、唐詩選、史記、左傳、四書、易經、詩經、書經、文選位を讀まば先づ一通り差ツカヘ無からん是れ皆な時文の深源と爲るが故に之を知らざれば時文を縱横自在に書き筆を隨意に驅騁する能はずサレバ此等の古文を學ぶこと必要ならん歟サレドモ一通り其の意味を解すれば足らん敢て深く穿鑿するには及バヌ餘り深く意味を穿鑿すれば今の文章を見ること能はず弱風になりて一個所に拘泥すべし何にせよ先づ字句の意味を解したる上は全躰の文章の意味を學び用語より結搆に至るまで善く注意すべし然かすれば作文の時、大なる助と爲らん。

今日の文は西洋文の元素を交ゆること頗る多くして國民の友の如きは宛然たるマコーレー文とも謂ふべき歟サレバ其の源因たる英文を學ぶこと必要なるべけれども英文は今日の普通教育に於て教ゆる所なれば別段吾が指示を要せざるべし唯だ吾が作文家に有益と認めたる一二を擧れば短文にはペイン長文にはマコーレー哲學的の文にはスペンサー等を可とすべき歟。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

多く名文を讀で理想の目的を定め然る後に多く之を作るべし作らざれば眼高く手卑くして實地の役には立たず若し批評家と爲らんと欲せば自ら作らずして古今の傑作名文のみを讀むも最も必要ならんが作者となるには多作を必要とするなり多く作れば心の構造力を強壯にし其の働を旺盛し習慣の効に因り覺へず知らず筆を運び文を舞はすに至り期せずして文章を成すべし凡そ習慣程の力の大なる者は有らじ唯だ遺傳に次くのみ是を第二の天性と言ひしは故ある哉されば名文傑作を摸範として作文すること多ければ頗ぶる能文家と爲るべし常に操觚の業に從事すれば駑鈍の者と雖ども必ず秀逸を出すことあらんされども若し摸範理想とする所の者正しからず且つ筆を下すに輕躁粗忽にして熟考せざれば縱ひ多作するも終に其の狹窄拙劣なる範圍を出づること能はじ故に先づ良書を讀で目的を高からしめ熟考して構造を愼み然る上にて多作せば大抵の人作文し得ざること無けんつまり歐陽修の三多に皈すべし。

されども若し拙文を多讀すれば拙文吾が心裏に印染して之を消すこと能はず所謂先入は主となり名文の入るべき場所を占取して獨り自ら理想の目的となるべし故に古來非常の文才あり乍ら拙文に心醉して其範圍を出づること能はざる者甚多し徂徠が滄溟に於ける如き其の類なり縱ひ拙文に非るも之に心醉すること甚しく崇拜の念止むこと能はざる時は吾が文章に大害を來すべしアーブレー女史はサミユエル、ジヨンソンを學で其の文躰を傷け南翠外史は龍溪先生の文を學で時事新報に痛惜されり本邦今日マコーレーの文に擬する者は動もすれば徒に奔放を勉めて反て眞性を失ひ千篇一律にして變化なく文字の修飾に急にして反て意を達するを充分ならず人工を以て自然を害するの趣きあり辭は達而已矣とは實に千古の金言なり何ぞ彫琢の末技を專らにして達意を忘らんとするや若し意にして達せずんば文の文たる將た奚がある達意の一事最も忽せにすべからざるなり達意の摸範として最も完全なる者は福澤先生の文ならん文章徒らに虚飾に流るゝの僻ある者は宜しく先生の文を熟讀すべし。

小說戯作の流行する今日の事なれば虚飾浮華の文章の持て囃さるゝは怪むに足らざれども苟も小說に非るよりは僞を措くは文の本色にあらじ漢文已に虚飾浮華を以て世に擯斥されしに今や時文も亦た其の轍を履み實用に適せざる虚飾の文を生ぜんとす此風を矯正するには福澤先生の文より善きはあらじ又た長文を用ゆる僻ある者にはペイン氏の文及び英文理學書類を讀むこと善ろしからん是れ對症の藥劑たるべき歟。

人各長所有り己れを枉げて他人の文に摸倣せんとするも得べからず若し厭くまで他人の文に倣はゞ必ず己れにも非ず他人にも非る一種の怪文を生ずべし既に己れの長所を捨て又た他人の短所を取り所謂虻（アブ）も取らず蜂も取らず骨折損となるべし是れ他人の文を學ぶ者の通弊なり須らく己れの特所を保存し他の長を以て我が短を補ふべし。

作文するに當て最も困難なるは腹中に書くべき主意の無きことなり此かる時は無理に書くとも益なければ暫く筆を休み靜に己れの書かんと思へる類の書を讀むべし其の中には自ら書くべき思想腹中に生ずべしサレバ書く事の無き時は二三日間讀書すべし。

作文せし後は校正を一二度も加へ然る後、更に書改め之を先輩に示して其の批評を請ふべし且つ讀み且つ書き且つ校し且つ評を受け且つ靜に考へなば作文の才自ら發達すべしされども先天の才なくば縱ひ何如に苦學すればとて名文傑作を出すことはよも出來じ唯だ生來有する所の才を巧に鍛錬し妙に誘導して其の發達を遂げしむるのみ教育とは按內と云ふが如し若し生來の才を適當に按內することを得ば教育の用終れりと謂ふべし。

作文には氣を養ふこと頗る益あらん筆澁で動かざる時は靜に古今の名文を朗讀せば可ならん賴山陽が毎朝項羽本紀を朗讀せし如きは頗る益ありしならん獨乙のローセンクラン氏の教育哲學に曰くカントの純理論の如き傑作一二頁を毎朝精神新なる時に熟讀し之を反復して半年間も持續せば氣を養ふに於て大補ありとサレども若し厭きて欠伸を生ずるに至らば却て氣を屈すべきなり大家の傑作を熟讀すれば其の人の精神を得て感化を被るべしとはローセンクラン氏の持論なるが其れ或は傳神の益あらん歟。

開書

○女學子に寄す

田村武二

拜啓秋冷の節愈御清健奉賀貴誌は一段の御改進爲國家奉賀候唯喜ぶ貴兄益々御奮發全國女學海の燈臺たる事を併し一言申上度候は少閑を偸て地方女子の景況を目擊被致度事也小弟は女子教育の事に付ても在京の日と地方滯在の時と大に所見の相違仕候滯在之候然し其大要は上流の品性即智識的教育を爲して少數の貴婦人を養成するは目下我邦の急務歟將た普通の智識に止めて實用的の婦人を養ふ歟の問題に御座候勿論少數の貴婦人を養成するは後來大感化力を婦人社界に及ぼす爲には肝要なる戰鬪に在之候間案偏倚すへきに非ざるも今日我邦の爲に一般に婦人

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

を教育するの必要より云はゞ女子教育者の隨分思考可致こと不少と存候過方の婦女は皆依然たる明治初代の人間にて實に劣等の有樣其故折角女學校の設あるも多くは程度高きに過ぎ爲と未た成功を見ざる内に早く紛紜のみ出來一同進歩の釘逆を不呈遺憾に存候是愚考を憐ます所にして貴説を仰度き廉に候勿論今の女子教育は表裏正反の諸道より勢を分つて進むべきとなれども近時早々都會と地方の差違を發見し偏長的の弊を慷慨罷在候吁自治制度は敷かれたり自治の民ぞと自稱すべし而して地方の冷却如此俊傑の士は何の無情ぞ名利を愛して都會にのみ遊び曾て一人の其郷を愛して其地に留り奮然文明の卒先者たるものなき獨り英國清教徒を想ふて慨然たるのみ獨喜ふ吾兄の卓見秀筆能く愚弟等の言はんと欲する所を代表され愚弟の如きものをして沈默して力を聲言女學雜誌を見聞すること能はざる徒を愛するに報すとを得せしむるとを愚弟にして卓見あれば豈に筆を執るとを好まざらん然れども幸に吾兄の優れるものあり愚弟復た議論に用なきなり是れ愚弟の近來筆を擱て貴誌を汚さず寧ろ兩手を神に捧けて右に道を傳へ左に女子の友となりて日夜勉强する所以なり弟決て自ら怠るに非ず神は適當の仕事を與へ給ひて隨分多忙なり吾兄幸に弟の疎慢を怒ると勿れ唯時に力を致すとあらば願くは一欄の餘白を借し玉はんとを。

○藤の屋先生に寄す

女學雜誌第百八十五號文學上符號の説を拜讀仕り昨非を曉り申候以后何か執筆候と有之候はゞ「……」「——」は使用可仕心得に御座候！？＝等は熟考可仕候敬言。

國粹保存家某生

○問答

●石井毀氏に答ふ。不知庵主人とは御察の如く内田貢氏なり。又しのぶは石橋忍月氏に非ず左れど實名は秘し與れとの委頼なればお答しにくし。人身内部の構造が七年目にて變るにては無く、構造は元の如くなれど大抵七年位にて元の肉や骨が一變し新らしき骨肉となるとの一説もあるとです●越路の賤女と云ふ方。伊藤伯は四十八年二ヶ月、黒田伯は四十九年二ヶ月、大隈伯は五十一年十ヶ月、井上伯は五十四年一ヶ月です、又德富君は二十七歳、二葉亭君は二十六歳、田邊龍子は十八歳と思ひましたが確と分りません、女學子云々は御免を願ひ升す見た所ろは余程老人のやうです●家政の事を早く知る本は何かとの三四のお伺、手前の申掟なれど本社發の闕輪正路氏著姫かゞみなど宜しう御座いましやう●木鄕の母氏。少年に送り玉ふには中村敬宇先生譯西國立志編（合本八十錢）又は松村介石氏著立志之礎が宜しかと思ひ升●秋月さま。彼の女丈夫近氏の事は未だ落着ぬ相です、其上金澤の市會全躰が今にゴタ〳〵です●石山女史。經驗に出て見ますと、書物を買ふ前に先づ本箱を造る、金錢の出入をする前に先づ帳面を造ると云ふが、家を整理する心得の秘訣と思われます、此の心得を欠きますとトン〳〵びやう子で常に忙しく方付ません●よし子君。着物につきし洒を落すには其所へ灰を掛け能く乾きたる時ハケで拂へば悉く落ちます。

時事（五日脱稿）

○宮中農家あり

皇后陛下は、去四日明治美術會の油畫展覽會へ行啓在らせられ、二時間餘り細かに列品を御覽ありて、松岡壽氏の御説明申上るを聞し召され、殆んど同氏も御説明に苦みたる程ど綿密に御尋ねありし由、斯て委員より優等の畫十餘幅を撰出せしめ、其中に付て更らに左の五品を御買上に成りたり、

農家の圖	四十圓	佐久間又吉
山村嫁女の圖	百廿五圓	小山正太郎
農家の圖	六十圓	本多錦吉郎
山村盛夏の圖	三十圓	淺井忠
雉子木額	二十圓	渡邊鍬太郎

斯て金一百圓を同會へ下し賜わり、還御遊ばされしと承はる。陛下の慈善にして且つ美術に御掛念遊ばさるゝとは万人の夙に感佩する所ろなるが、今ま其御撰出に成りし所ろを伺ふに、悉く是れ最優等の品にして、且つ多くは農家茅屋に關するの圖なり、大御心の程如何に有りがたからずや、而して殿中雲上に百姓の疾苦黽勉する躰を見せ奉まつるは、啻に畫きし人の光榮あるのみならず、又た油畫に取りての大功なれ。

○元治の昔し、明治の今日

元治元年七月長州勢京都に押寄せ、禁裏御所守護の兵と戰爭

したるとき、宮中の騒ぎ一と方ならず。當時典藥頭として勤仕し、其節馳せ參じて實況を目擊したる、三角氏の談話なるもの「文」に揭載せらる。其一節に云く、

主上の御提灯を取るものなく恐しこくも親ら取らせ玉ひて中川の宮御前に立ち紫宸殿に渡らせらる、渡廊には會津兵主上の渡御とも知らず暗黑の中より素鎗にて現はれしを制して退やる、やゝ御座に着御ありしが女官どもは主上の入り玉はんと見て崩れ裂り何如に制せども聞入れず、亦た窒きに堪へねば前面の格子あげよとのたまへど擧ぐる人なく三角高階の二人やう／＼御格子を擧たれば風め入り洛中兵火のさまも見渡されたり、人々の騒ぎもやゝ鎭まりし程に御座の后にて砲聲の如き甚しき響ありければ、主上にも特に愕かせ玉ひ御座より立たせ玉へば御前に侍ひし二三の人たち止め奉る、此の騒ぎに皇子かしこくも倒れさせ玉ひたれど女官どもは泣きまどひて夫とも知らず、主上親から御蓐をとり敷かせ玉ひて慰さめられ三角高階の典藥いそぎ氣附を奉らんとて女官に水はと仰すれば御厨まで取りに行く斯る折にはとて御庭にて守衛の用ひたる水の殘りにてすゝめ奉まつりやう／＼御心づき玉へり、さて言のなしゝは遷幸なりとて女官ども主上の御齒黑の壺を持ち來りて誤まりて廊に落しゝ響きなりけり。

去る三日の天長節には王子明宮殿下の冊立あり、殿下勇ましく小尉の軍服を着け、馬車に御して優然立出玉ふ、各校數万の生徒歡迎して、鯨波万歲を唱ふれば、殿下は帽を脫して打振り／＼、答禮遊ばされぬ。

嗚呼今上皇帝は元治戰亂の跡を受け、別けて儲位冊立の式をも取らせ玉はざりしに、今や明治太平の御世となり、斯く目出度、斯く勇ましく盛式を擧ぬると、幾重にも有がたし、帝室の爲に誰か今昔の感に切ならざるべき。

○楠公と伊藤伯

伊藤伯、神戸楠公祠前に於て、祠官折田氏の韻に次し、

十年誤讀古人書。半生空歸舊草廬。愧我霜鬢身未死。
楠公墓畔問君居。

と賦へりとか、陛下憂ひ深く、相公病重し、時に樞密院の議長は子の病を訪はんとて神戸を過ぎ、端なく古廷尉の祠に至る、仰ぎ見れば義公の書あり、嗚呼忠臣楠氏之墓。

○青年の眞髓

俠氣隆大なる青年あり、不羈獨立なる青年あり、何の政派に

も從屬せざる二十有三の青年會あり、其の青年會常に聯合して能く一致大運動すとの聞えある青年會あるは、即はち彼上毛の地にあらずや。此地嘗て多くの俠客を出せり、此地嘗て妓樓全廢を斷行せり、此地嘗て尤も正良なる縣會を出せり、此地嘗て質朴勇猛の少年多しとの誉れを得たり、而して今や縣下二十有三の各青年會は、去月廿七日午前九時、高崎町春靄館に聯合會議し、議案十則を評定したる内、特に左の如き件々あり、

第一　日本全國に於ける娼妓を廢すべきことを元老院に建白し猶ほ本縣下廢娼の義を縣會及び縣知事へ建議し又委員を撰び縣下各地方に遊説し各團體及有志者の寄附金を以て此運動費に充つる事。

第二　本會員集合して青年の會合を開くときに於ては必らず禁酒の主義を取る事。

第五　本會に於て上毛風俗取調委員を設くる事。

嗚呼青年は國家の元氣なり、此元氣にして若し腐敗せば國家の盛隆到底望む可らず、然れども若し此元氣にして正大純潔ならば、現今の不德不道中亦た異日の改矯を望むべきものあり、恰かも黑雲蟠密の間だ旭日の微光を窺ふに似たり、此微光の遂に天に滿々たるの時ある如く此青年の遂に社會を動かし得べきことを信望するは何等の愉快ぞ、而して今や上毛各青年會は實に此の旭日となれり、吾人は左に其各會及委員の名を列記して之を永遠に記臆せざる可らず。

室田青年會。南甘樂青年會。上毛興娑會。岩鼻少年會。桂萱青年會。教育談話會。北緑青年會。上毛矯風會。高崎公同會。赤陽青年會。烏洲自助會。宮城青年會。上白井青年會。佐位那波青年會。上毛青年會。上陽青年會。磯部郷友會。新田協同會。宮郷青年會。南勢多青年會。北甘樂青年會。青年進成會。前橋共友會。

建白書捧呈委員（石島良三郎）（渡邊金二郎）

建白書起草委員（塚越芳太郎）（阿波荒二郎）（武下久二郎）（大竹蟒蜩）

是近來快絕の好報なり、謹んで天に謝し、且つ右諸青年會のいよ〳〵健勝ならんを祈る。

因に云ふ、右運動費に對し寄附せられんとする有志者あらば、吾社は之を彼地に轉送するの勞を辭せざるべし。

○富士山傍の新ダミエン

彼の若年有爲の僧ファーザー、ダミエンが、モロカイ島に遠ざけられたる滿島癩人の爲に起り、翻然一生を孤島に捨て、此の憫れむべき天刑の人民を救はんと欲し、身を不治病の谷に投じて遂に之を改良し、改良の功略ぼ成るとき、毛脫し皮たゞれて悲むべし其素志の如くに死たるは、實に數ケ月以前の事なり、吾人其經歷する所を聞き感奮勇躍たり、嗚呼何ぞ其志想の正大、其事業の洪善なるやと。然るに横濱メール新聞の傳ふる所に由れば、現に今も我國富士山傍に一個の癩病院を設け、我同胞中の癩病者を治療せらるゝ者あり、名をファーザー、テスウ

オイデと云ひ、天主教の僧なりと、氏は數年前來日本の癩病者を醫やすを以て其天命なりと信じ、御殿塲近傍に一小屋を借り、患者六人を集めて之を保護し、支那東京に於ける該病取扱の法、及びモロカイ島に於ける日本醫士後藤氏の療法に循がひ、其治療法を用ひて果して良効を奏せりと、然るに種々の困難湧出して氏を妨ぐる者あるのみならず、彼一小屋の家主は殘酷にも之を癩病院に用ひしむるとを拒み、氏が高倘なる事業も半ば廢喪せんとしたるに、偶ま亦一國人あつて氏が志を大賛し、七千坪の地を讓りて氏に合し此事に協力せんとするに至り、今や富士山傍風色氣候双美の所ろに、六百十三圓を以て建てられたる病院を見ると。嗚呼何等の美報ぞ、吾人之を謝し、亦之に勵げむ。

○滿塲の僧侶諸君!

吾人は元來僧侶傳道師宣教師など云へる一種特別の仲間あるとを好まざるものなり、况んや寺に墓を看し、坊を守り、終生暗寺に默居して人生の大義務を怠るが如き、全國數十万の僧侶あるとは實に殘念に堪へず、昔し封建の世に於ては佛界は實に英雄事を爲すの地にてありき、然れども此地今は殆んど世間無用の境界となれり、最早蛟龍の蟠かまるべき池に非ざるなり。然るに近來紛々として宗門宗派に爭ひあり、滿塲圓頭の議員沸々騷々し、僅かに歐洲に於ける耶蘇教會議の談を聞きて靜まる如きは何等の醜聞ぞ、左れば忠實に白す、佛界の諸英雄先づ其耐界を脫出すべし其地は最早や諸君が大志を伸すの領分に非ず……吾人は諸君に向つて之を宗教的に言んとする感覺を生ぜず、只だ之を俗世の事業的に相談する也。

○福田會育兒院

福田會育兒院は、佛教各宗の有志者が協力して、明治十二年に於て創立したるものなり、爾來朝野の賛成及義捐少なからねど、何分墓々しく立行かざりしに、此度鳥尾、三浦、河野三夫人及び德川毛利兩公夫人、大に之を慨き、其改良法並に將來の方針に付きて協議せらるゝ由、如此き會は何卒益々成功して、其恩の廣く普及せんとを、只管らに念願す。

○秋菊

淵明の菊を愛するは、其の万芳に後れて獨り秋壇に花さき、隱逸にして自から君子の風あるが故なり、然るに團子坂に於ける造り菊の如く、屈折曲造俗中の俗に似せしむるを見れば、深く菊を愛するものは、更らに深く之れを嫌ふあるべし、菊倘ほ如此し、君子にして市に爭ひ、俗に倣ねらば、玆に安ん

ぞ君子あらん。

○紅葉

秋の木の葉落ちんとして先づ黄ばむ、其の黄ばみて滿目紅燒すれば秋天蕭條、一瓣あきの冷候に於て忽然花界を現ず、嗚呼老年の武者、生前今一度び憤發しては何如に。

○裸躰人

彼の繪草紙店頭の裸躰人は何等極醜の畵なるや、吾人が之を論じて當路者の注意を喚呼したる一二回にあらず、然るに啻に其舊畵の滅せざるのみあらず、新らしき醜畵亦追々に出で來らんとす、當路の人何を以て之を顧みざるや、嗚呼吾人が絶叫する所ろ尙ほ省内に達せざる乎、然れども讀賣記者も同感を表したり、日報記者も同感を表したり、今や彼の醜猥なる畵圖に對するの反對は輿論となれり、當路の人正に其聰耳を傾けて可也。

○歌舞伎座

憲法發布前の福地源一郎氏は、文章を以てシバイを演ぜられしが、今の櫻癡居士は改良劇場の座頭となり、來る十五日よりいよ〳〵歌舞伎座を開かれんとする由、吾人は切めては此座が能く士君子の遊覽に應じ得あんとを祈る。

○中止論者の責任

條約改正中止を長叫したる幾多の團躰は、最早や内閣中止に決したりと認定して夫々に分解し、壯士錦を衣て鄕關に歸るの躰あり、然れども諸君の任は改正談判を中止せしめたるを以て畢るとなす乎、來年國會開け、憲法實施せらるゝに至り、居留地の制、裁判の權、等悉とく外人に支配せられ、率土の濱に王土ならざる處ろあり、日本の或地と或亦所とに付きて憲法の行はれざる處ろあり、而して尙ほ我帝國に光榮ありとする乎、物を破るは子供すら能くす、志士もし一事物に付きて之を破壞せば更に之に代るの善策を建設せざる可らず、今や舞台一轉せんとす、今后の大役は常に中止論者の任とすべきものにあらずや。

○公立學校、私立學校

教育品展覽會の開設を祝し、以上は只だ公平なる審査あれと希望したるに、出品は私立小學校に多きに關はらず、審査委員の多數は悉とく公立學校長にして、私立學校長は只だ一人にてあり、隨つて公立學校長は自ら其出品を評し、且つ私立學校の出品を評することゝなれり、而して審査の后ち公立學校總て優等にして私立學校總て劣敗したり、此の故に出品者中現に非常の不平を起し、私立學校の役員にして其職を辭するものすらあるに至りぬ、呉〳〵も殘念の事なり。物の比較は出來上りのみを見て評す可らず、之を仕上ろに何程の自力と、何程の他力と、何程の勉強とより成れるかを吟味せざる可らず、若し然ることなくんば、官公の爲す所ろ常に立派にして、人民の爲す所ろ常に不立派ならざるなし。

○秀麗なる古畵

上野美術會に開かれたる、臨時美術展覽會は非常の秀品を出せり、吾人が一覽したるは去五日にして尙ほ續々優物到來しつゝありしが、滿場を瞥見し去るに暫時にして數十の名作に着目するを得たり。特に其繪畵の如きは、前年第五回展覽會に於て出品ありし以來、嘗て見るを得ざりし程の稀珍なる秀物に富めり、而して其出品者の特に京坂に多くして東京府下に少なきは一奇と云ふべし。北齋に於ては糸繰女、及び鍾馗の圖尤も佳なり。文晁に於ては蘭亭及び武陵桃原の圖尤も佳なり。容齋に於ては辨慶靜雜經を雪月花に見立て三幅の對と爲したる者、及び源

氏五十四帖の講解特の外秀でたり。細密なるを、應擧の嵐山の圖、狙仙の猿（每度見たれど）の圖等あり。筆力の勁强なる日觀の葡萄の圖、雪舟の鍾馗の圖、雪村並に古法眼が三子風水に駕御するの對圖等尤も驚ろくべし。其幽邃なるは、數多の古畵中、式部少丞爲基の櫻がり及び月夜の圖特に佳なり、一は幽靜、一は洋々たり。就中、其數の尤も多く、其格の尤も秀でたるは蓋し應擧の諸圖なり。其高弟源琦と合作したる美人三幅の對圖は、位地と云ひ、色取と云ひ、摸樣と云ひ、風采と云ひ、年配と云ひ、寸毫の申分なき、實に非常の出來なり。松林の圖は遠近靜雅として曉月適に谷間に落る樣如何にも目ざまし、只だ松の色の少しく過綠なるを覺ゆる耳。厭に雀の圖、彼の雀の何如に飛躍するの妖ある哉。芳野龍田の圖、身其地に在る心地す。西王母龍虎三幅の圖、虎の伏す處ろ、龍の睨む處ろ、西王母の安んずる所ろ、何等與妙の意匠ぞ。高砂鶴龜三幅の圖、群鶴の首甦々として而も何ぞ其の能く相調ひたるや。玄德三顧の跡を畵ける、八枚大屏風の御物は、稀世の逸品にして之を拜覽し得たるは、尤も謝すべし。投筆揮毫に成れる達摩山水の三幅畵は、應擧の作には珍らしきものにて、墨痕淋漓として筆意神の如し。而して、彫刻、磁器等に亦た優品頗る多かりき、實に日本固有美術の爲めには稀れなる名品の出で來りたるをゆへ、只だ十日間の開場としては頗ぶる惜しきやうに思はる。

○國文學

府下各學校の國文教師集會評議せられたるよし、今や万葉流にても致し方なく、源氏物語風にても埒明かず、左りとて漢文的にては分らず、飜譯躰にては分明ならず、蓋し、今の日本人の思想はやまとの如く、支那の如く、西洋の如し、此等に能く親和し得べき改良したる新國文躰の起らんとは、万人の切に熱望し居る所ろ也。

○褒章

賞勳局に於て石川縣加賀國石川郡野々市村水毛生伊余門へ藍綬褒章を下賜せらる即ち左の如し、

石川縣加賀國石川郡野々市村　水毛生伊余門

夙に志を公益に勵まし安政年間より自費を以て村内の荒蕪地四町七段余歩を開墾し之を割て村民に惠與し且隣村大平寺村民の墾田を經始するも貧窶て困弊に陷るを見自ら營て之を擔任し竣功の後工費を收めずして該村民に讓與し其他文久元年より蚕糸改良に盡力し桑苗一万餘株を三十餘村に頒施し以て其繁盛を期す爲めに費す所鮮なからず其成績著明なりとす依て明治十四年十二月七日勅定の藍綬褒章を賜ひ其善行を表彰す。

●女報

○東京女子手藝學校　芝公園内能樂堂前に設立したる東京女子手藝學校は小崎千代子、古莊はる子、志村とみ子、町田やす子等諸夫人の發起にて澁澤榮一、益田孝、古川泰次郎氏等の夫人が商議員となり校長は高橋五郎氏教師はクラヽ夫人を始めとし其他數名あり又手藝教師は米國裁縫學校を卒業せし平田玉子夫人外數名を雇聘し專ら女子に必需の手藝及普通學を授くるの目的にて去る七日より開校したる由。

○内外國人結婚數　昨廿一年間東京府廳に於て取扱ひたる内外國人の結婚數は日本人にして英國人に嫁せし者二人米國人にして日本人に嫁せし者一名なりしと云ふ。

○産婆會　去る四日東京府廳に於ては午后四時より産婆會を開きたり。

○忠實なる下女　澆季の世にも尚ほ德義地を拂はず時に斯る美事を聞くは喜ばしき至りなり府下北豐島郡高田村二百十九番地細川邸内金子智曉氏の雇女原籍茌原郡不入斗村三ッ木銈吉の二女みつ（二十八年）は十五歳の時より智曉方へ雇傭せられ十四年間忠實を盡せしを以て東京府廳より今般左の通り賞金を賜はりたり。

茌原郡不入斗村銈吉二女　三ッ木みつ

雇主金子智曉に事へ能く忠實を盡し殊に智曉の病苦を介抱し遂に死に至る迄看護至らざるなく十四ヶ年間一日の如く志操を變ぜざる段奇特に付其賞金二圓五十錢下賜候事

明治二十二年十月廿三日　東京府知事從四位勳三等　高崎五六　印

○遊廓設置指令取消願　岐阜縣多治見町の某氏は先頃許可を得て遊廓を設置せんとするも町會の議決により右指令取消の議を請願せしに聽かれざりしを以て今度は内務大臣へ請願せんとて其願書に調印せし者一千百五六十名の多きに及べりと云ふ。

○京都藝妓内務大臣に訴願す　京都祇園新地の甲部と先斗町及び宮川町の三花街藝妓は市税徵收の件の違法なりとて曩に京都市參事會へ訴願せしも今般違法にあらざる趣きの裁決を與へたるを以て該三花街の藝妓は一名の東上委員を撰擧して出京せしめ内務大臣へ訴願する由。

○埼玉慈善會　は各宗僧侶の發起にて同地の慈善家を募り設けたる者なるが既に貧民子弟の教育免囚保護場等の事業に着手せしが此頃又同縣典獄縣會議員等の人々が同會へ依賴して本月廿七日各宗僧侶を招待し在監死亡囚徒追繕の大法會を浦和町玉蔵院内慈善會本部に於て營むと云ふ。

○女囚多し　近來は廣島監獄に囚人の數を增し日々十八餘の入監者ある由なるが別けて女囚甚だ多しとの事也。（十月廿九日藝備日々新聞）

○十津川の婦女　不慮の水害に非常の困難に陷りたる大和十津川鄕の婦女二百餘名は大阪紡績會社の募集に應じて女工となるの見込にて既に雙方の談判整ひたる由。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

○新誌

毎日新聞 三十日 内閣の方針如何●卅一日 反對とは破壞の謂に非ず●一日 殘忍の人愛國の情あるの理なし●二日 政途の方針を一定せよ●三日 島田三郞氏の條約改正論●五日 前接、試政の權利には義務の之に伴ふあり

日本 三十日 内閣機制と外交問題●卅一日 承前●一日 日本政況の一大變遷●二日 承前●三日 天長地久●五日 輿論の責任

政論 三十日 我國人民の政治思想●卅一日 新内閣の組織如何●一日 伊藤伯の辭職聞届けらる●二日 前途尙遼遠●三日 立皇太子式の盛典●五日 速に新内閣の組織あるを望む

日々新聞 三十日 三條内閣●卅一日 三條内閣の方針を公示せらるべし●一日 一頁村長を失ふを憾む●二日 内閣會議の方法を一定すべし●三日 立太子の御式●五日 天長節後の明治二十二年

朝野新聞 三十日 國是先づ定りて而後ち外交の略始めて言ふべし、新内閣の方針果して如何●卅一日 接前●一日 内閣何にか定まらん●二日 勅諭と隣帶責任●三日 謹で天長節を賀し立太子の大典を祝し奉る●五日 別れに臨んで一事の伊藤伯に質さんと欲するものあり

報知新聞 三十日 暗劇狙擊の惡風か日本に與ふる所の害毒●卅一日 躊躇する勿れ●一日 何をか聯帶責任と謂ふ●二日 將來の一大難事●三日 明宮嘉仁親王殿下の東宮に立たせ給ふを祝し奉る●五日 内閣と樞密院との關係、一國爲政の機關を整頓するの急務

時事新報 三十日 米國政府の窮困●卅一日 社會の風景を殺了する勿れ●一日 伊藤伯の轉任●二日 新内閣の方向●三日 本日の大典●五日 重きを北海道に置くべし

讀賣新聞 三十日 日本のフエリー●卅一日 新内閣は舊内閣員を以て組織せられたるものゝと見えたり●一日 伊藤伯宮中顧問官に任せらる●二日 日本將來の内閣は板挾みとならん●三日 立太子式●四日 政治家の去就●五日 政治家の身の上

東京新報 三十日 條約改正談判に關する書類●卅一日 接前●一日 秩序●二日 接前●三日 皇太子の冊立●四日 秩序、休刊を廢したる事

○毎日新聞、殘忍の人愛國の情あるの理なし

前年米國大統領ガーフヒールド氏狂暴者の難に罹り、傷つきて病む、數旬其床に在りて難苦するや、總べての合衆國民か掛念は氏が鼓脈の一高一下と共に上下したり、此時に於ては何如なる政敵と云へども氏が病狀に付きて悲びざるものなく、又何如なる仁人と云へどもギットーが凶行に付きて怒らざる者なかりき。后ち英國女王氏が永逝を弔して曰く、然れども氏が一綫の命脈幸ふじて續きし間だは、何如に人をして掛念せしめ、掛念なして何如に人を仁に進ましめしよと。夫れ大隈伯今回の遭難は恰かもガーフヒールド氏ギットーに要撃せられたるに似たり、幸にして伯が傷尙淺く、日に快治に向ふと云へども、苟くも氏が國事の爲めに此の難に罹りたるを思ふ者は、何人か其の災に泣きて其の不幸に同情を表せざらん、吾人は政治上に於て必しも大隈伯の友たる者に非ず、然れども其の國の爲に万難を冒ひ、一身を擲つて確く自信する所ろを斷行し、遂に之れが爲めに斯の如き災厄に陷りたるを見れば、衷心より之が爲めに慟哭するなり。彼の小山驛停車塲邊に群りたる壯士が、大隈伯危篤と聞きて拍手喝采したる由は、蓋し何事かの誤報なるべし、万一にも之れありとせば、壯士國事に熱中するの餘り、客氣沸騰して思はず狂呼しるに過ぎざるべし、彼人々と云へども若し頁知靜寂の時に於て之を聞かば安くんぞ泣かざらん、故に吾人は如此き人々の本心を疑はざると共に亦其の少しく物事に靜かならんとを希ふべし。但だ吾人は之を謝す、此度の凶事に際して吾等二種の秀文を得たり、一は時事新報「大隈伯の一身」と題して之を述べ、今は毎日新聞「殘忍の人愛國の情あるの理なし」と題して(十一月一日紙上)之を記せり、共に是れ人情の至眞を穿ち、今日に際する人々の衷心を言へり、人間豈に夫れ冷々ならんや、何人も皆な人の不幸に悲しみ、他の善に喜こび、世間の不義に憤ふるもの也。

○讀賣新聞、日本のフエーリー

理屈ばくして面白く、直ちにして愛嬌あり、憲法くさくして而も文味深山なるは讀賣新聞なり、而して吾人は特に其の社說の簡閑短直なるを愛す、去三十日の紙上、大隈君を以て佛閣門のフエーリーに比し、後藤君を以て同じくアーランセーに對したる、快妙と云ふべし。現今府下に於て大隈伯に對する三種の新聞紙あるを覺ゆ、三種皆異色を呈して同一に伯に服す、報知新聞はフが忠臣たるが如く、毎日新聞は之が貢臣たる如く、讀賣新聞は之が撰擧者の如し。

○矢田部頁吉氏、婦人道樂の說

高等女學校長矢田部頁吉氏は、好んで奇說を吐かるゝと見えたり、國の其第八號に載せたる「婦人道樂の說」に、婦人は道樂をするが善きやおやと問ひ、いよ〳〵宜しきとに決案し、扨て然らば何如なる道樂が宜しきやと云ひて、氏が研究せられたる所ろに從へば、音樂を道樂とする事、慈善を道樂とする事、病人の世話を道樂とする事、教育上に盡力するとを道樂とする事など宜ろし、又体の弱きものは体操、美術、郊外散步等を消樂とするも宜ろし、特に尤も宜しきは植物學を研究するとを道樂とするに在るよし。近來の奇說と云ふべし。

○國民之友發行停止

何故に停止せられたるを爭、其第六十七號を再讀するに、いつもより活氣あり、寧しろ書生らしくある、時事の見ゆる外異常なし、政治上、社交上、道德上、に於ける此の頁友の暫らく見えずなるを歎す。

○嵯峨の屋氏、香に醉はんため

國民之友第六十七號に載せたる短歌俊請なり、今の文學者中嵯峨の屋の如く純潔なる毅さく稀れなり、願はくは此文藻に感ずる人彌よ多くならんとを。但だ一事を告ぐ、氏の感想多く固定して其の觀念變はらぬと見え、氏が近作中、「流轉」にも岩頭の獅子と云ふとあり、「平等論」にも吹ゆる獅子と云ふとあり、此短歌にも飢たる獅子と云ふとあり、蓋し今の世事に慨せらるゝの感想ならんが、此類の短所少しく切磋あらんを望む。

○兆民居士出現せり

政論の主筆は中江篤助氏なりと廣告ありしが、初め三四回の程は兎に角、次后絶えて兆民居士の文をりず、又居士の文脉に似たる文すら見ざりしに、此の天長節は如何なる復活の機力ありしが、此節以來彼の文章家は再たび現はれたり。近時の文に其尤も多感的なるは兆民居士と矧川漁夫との作なり、漁夫のは滿腔の熱感を正面より吐出する如く、居士のは寧しろ白熱したる極感を冷語するに似たり、一は經濟上より慷慨し、他は哲學上より慨泣し、一は國民的に叫び、他は權利上より罵しる、而して志賀氏の文は尊奉者多きに、中江氏の文に隨從者稀れなるは何如ん、蓋し中江氏の文は粗雜なる城壁の裏に芳閣の蟠旋するが如し、尋常の視察家には寧ろ分らぬと見えたり、民友氏能く之を察し、評して彼を文學界の天使なりと云へり、然れども吾人は之を天使なりと思ふ能はず、彼は蓋し哲學者中の詩人、文學界のバイロンなるべし、其インスピレーションは上より來らず、横より來る、其叫ぶ所ろは天に向はず、平民に向ふ、而して能く兆民居士の文に似んとするものは、獨り中島湘烟女史あるのみ。

週報

○官令　去月三十一日勅令第百十四號を以て特別輸出港規則施行の件を裁可公布せられたり●去る二日勅令を以て西洋形船海員雇入雇止手數料に關する件を裁可公布せらる

○宮廷　去る三日嘉仁親王殿下を立てゝ皇太子とせらる●同日皇帝陛下は青山練兵場に於て觀兵式を行はせらる●皇后宮陛下は去る四日美術展覽會へ行啓あらせられたり

○政治　去る一日三條總理大臣始め各大臣には内閣に參集して會議を開かれたり●樞密院にても同日參集して會議を開きたり●去る一日詔勅を以て黑田清隆、伊藤博文兩氏を待つに大臣の禮を以てし元勳優遇の意を昭にすと仰せ出されたり●去る三日皇太子嘉仁親王殿下は陸軍歩兵少尉に任ぜられ玉へり●元老院にては去る四日國税滯納處分法案第二讀會の階議を開きたり●非新條約案の意見を以て團結したる五團体は去る三日を以て神田明神の開花樓に於て解散式を行ひたり●曾我祐準氏は東宮大夫中山孝麿氏は東宮侍從長高辻修長氏は東宮亮に任ぜられたり

○外交　希臘皇太子と獨逸皇妹ソフヰー姫とは去る廿八日御婚儀整ひたる由●獨、露兩公使は去月末頻りに外務省へ出頭し青木次官と秘密談判を開かれたる由●米、英、獨、露、佛諸公使を始めとし各國公使は去る三日天長節並に册立大典祝賀の爲め參内したり●二三外國公使は頻に條約改正の處置如何を催促する由●佛國公使は去る五日同公使館に於て内外貴顯を饗應したり

○美術　大日本閨絲會にては去る二日上野見晴亭に於て役員の撰擧を爲せり●臨時美術展覽會は去る三日より上野公園美術協會に於て開かれたり

○教育　東京府教育會は去る四日府廳議事堂を借受け商議會を開きたり

○文學　去月廿七日麹町區飯田町なる皇典講究所に於て國文學振興の會議を開きたり●前田正名氏農林學校長となる

○宗教　芝愛宕町なる進口教會にては去る四日選祠式を執行せり●攝河泉三國の有志僧侶六百餘名は衆議院撰擧法第十二條の改正あらんとを去月三十一日大坂府廳を經て元老院へ建白せり

○會社　兩毛鐵道會社は去月廿八日商工會議事堂に於て株主總會を開き本年上半季の事務報告並に決算を報告せり●山陽鐵道會社去月廿八日神戸商法會議所に於て株主總會を開きたり●水戸鐵道會社は去る廿九日兜町銀行集會所に於て定式總會を開き利益配當の事を議了して役員の撰擧を爲せり●日本鐵道會社は去月三十日株主總會を木挽町厚生館に於て開きたり

○新誌　去月三十日東西新聞解停せらる●去月廿九日一時一涙と題する出版物の發賣を禁止せらる●鹿兒島新聞は鹿兒島同志會の機關新聞と爲れり●大坂の新社會燈は停止せらる●國民の友は去る二日發行停止を命ぜらる●輿論新誌は去月三十日限り廢刊せり●やまと新聞は風俗を壞亂すとて去二日發行停止を命ぜらる

○雜報　久しく結んで解けざりし東西新聞の大岡育三氏に對する誹毀事件は去月廿九日終結と爲れり●奥羽六縣の有志委員會は去月廿六日仙臺公園地掛架館に於て開かれたり●去月廿六日新潟同好會倶樂部に於て石川、富山、長野、福島、新潟五縣の聯合同志懇親會を開けり●東京の鹿兒島縣人諸氏は去る廿八日芝公園内郷友會事務所に會して鹿兒島倶樂部なるものを設立するとに決したり●東京市會は去る一日より開會せらる●東京市區改正委員は去る卅一日内務省に於て幹事會を開きたり●日本倶樂部は去る卅一日解散を告げたり●岐阜縣知事は諸般工事撤去不當處分恢復の訴訟に於て去月廿六日敗訴となりたり●前后十七回も法廷を煩したる十州鹽田事件は去る三十一日大坂控訴院にて判決せらる●山形縣西置賜郡長井村の佐々木宇右兵門氏は昨年中同村にて銀鑛を發見し其の筋へ借區を願出てしが愈々許可濟となりて採堀に從事せり●英國汽船コーリングハム號は去る二日横濱税關へ出港手數を爲さずして無斷に解纜せり

廣告

産婆學各論講義

本月ヨリ始ム生徒廿名入學ヲ許ス

日本橋區矢ノ倉町　櫻井邸内　私立東京産婆學校

産科手術學實地演習

來十一月十五日ヨリ十二月十五日迄ニ卒業

醫術開業免狀若クハ前期卒業免狀所有ノ者入學ヲ許ス

櫻井邸内講義室幹事

産室落成

ニ付姙婦幷ニ産婦入室ヲ引受ク

日本橋區矢ノ倉町十二番地　櫻井邸内産室掛

楠田謙藏著

櫻井氏産科手術學　全一冊

櫻井氏産婆手術學　全一冊

發賣書林　嶋村利助　丸善書林

婦女災害義捐金寄附者姓名

各地へ

金二十錢	群馬縣碓氷郡細野村 細野婦人會々員
同二十錢	同
同十錢	同
同八錢	同
同五錢	同
同十錢	同
同五錢	同
同二十錢	同
同五十錢	同
同五十錢	同
同十錢	同
同五十錢	同
同十錢	同
同三十四錢	豐前國仲津郡與津村

玉村せい子　岩井しん子　中島いわ子　中島きち子　石井さと子　小金澤つね子　石井かく子　上原きく子　上原たい子　岩井わか子　中嶋とよ子　永野ちよ子　上原やす子　某婦人

小計金三圓〇二錢

合計金二百六十九圓四十九錢

[illegible]

袖珍形銅版縮刻帙入頗ル美本　全六冊　正價七十五錢○郵税四錢　豫約前金五十錢

同 [illegible]

絹帙入上等美製本全三冊　正價九十錢　郵税二錢　豫約前金六十五錢

右三代集ハ古今和歌集。後撰和歌集。拾遺和歌集等ノ合稱ニシテ悉ク御歴代ノ勅撰ニ係リ古今名家ノ秀詠ヲ集メ頗ル有名ナル歌集ナルヲ以テ世ノ歌詠ミ文書ク人ノ常ニ座右ノ摸範トナリ世ニ行ハルヽヤ是ニ久シ今ヤ弊店ニ於テ諸君ノ旅行携帶カバン入レ及机上ノ扱ヒ等ニ便ナル爲メ袖珍ニシテ彫刻ノ鮮明ナル製本ノ美麗ナル者ヲ出版セントス是ニ廣メノ爲メ五百部ニ限リ豫約販賣ス但豫約ノ多少不論出版スルモノ故諸君ハ十一月十五日限リ全價御送アランヿヲ而シテ此期ニ遲レタル諸君ハ一切謝絶シ更ニ普通價ニ依ル○該本ハ十一月十五日ヨリ順次通運又ハ其求ノ便ヲ以テ遞送ス○見本ハ二錢郵券封入請求次第呈送可仕候○郵便切手代用ハ一割増

東京日本橋通四丁目　書林　椀屋

江島伊兵衛

一本校今般速成ヲ以テ普通科高等科男女子生凡五十名臨時募集候條志願者十一月廿五日限リ願書差出ス可シ

本郷區追分町三十一番地

私立

東京唱歌專門學校

一本所今般設立相成候ニ付毛筆畫教員及ヒ東京美術學校入學志願者來ル十一月廿五日限リ申込ミアル可シ

東京唱歌專門學校内

私立

毛筆畫講習所

以上各所ノ各學科兼修スルヲ得ヘク總テノ規則書望ミノ者ハ郵券四錢ヲ送附ス可シ

本校此度新築落成シ教則ヲ改良シ女子必要ノ學科ヲ懇切ニ教授ス口下若干名ノ女生徒ヲ募集ス入學望ミノ方ハ至急御申込アレ教師ハ内外人數名月謝一圓束脩一圓寄宿食料三圓

橫濱居留地山手二百四十四番

橫濱英和女學校

遞信省認可

植木枝盛著述

東洋之婦女

十六女史及一興風會序

●中島とし君 ●河田さと君 ●濱田さわ君 ●長崎きよう君 ●佐々城豐壽君 ●清水とよ君 ●富永らく君 ●大伴せい君 ●大谷清江君 ●吉松ます君 ●森岡かつ君 ●土佐女子興風會 ●千頭とし君 ●平井道世君 ●中村とく君 ●山崎たけ君 ●村雨のぶ君

是乃ち植木先生が誠實忠實の眞心と至情とを以て詳密の思想と研究とを以て○男尊女卑の現狀○原因○結果○匡救の策より○婚姻の事○婦人社交の事○女子將來の事等をいとも信切に懇篤ふ論述せられたるものなり實ふ是女權擴張女風改良の最良案內者なり

○定價四拾錢全國遞送無料

◎大賣捌所東京神田小川町集成社 ○其他賣捌各書林

實驗保證

身體白色法は種々あれど弊舗は全く經驗奏功者あるものにて其の料たる劑ハンドコロンは實價金七十五錢

神田南神保町 四、おきなや

觀客諸君ノ御眷顧ヲ蒙リ社業日ニ月ニ盛運ニ相向候段深ク奉謝候就テハ今后諸君ノ御便益ヲ謀リ尚ホ大ニ本部ノ業務ヲ擴張仕內外ノ商會及書肆ト特約ヲ結ヒ本社從來ノ正實ト非常ノ勉强トヲ以テ諸種學校用ノ教科書ヲ始メ和漢英佛獨等ノ文學法學理學哲學農學工學教育倫理宗教等ニ關スル一切ノ書籍雜法類繪札(クリスマス、カード パアスデー、カード)幷ニ風琴、ピアノー、幻燈器其他教育器具類等最モ廉價ニ最モ迅速ニ御注文ニ應スヘク候間續々御用被仰付度願上候也

女學雜誌社書籍部

定價

一册。六錢	郵稅。五厘	(但府內無郵稅)
十册。五十八錢郵稅。五錢		(同前)
半年分	一圓四十三錢	府外は 一圓五十六錢
一年分	二圓六十錢	府外は 二圓八十六錢

廣告

一行	一回 (廿七字詰)	前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

發行所 東京麴町區富士見町二丁目一番地 女學雜誌社

編輯兼發行人 東京麴町區富士見町二丁目一番地寄留 巖本善治

印刷人 東京芝區源助町十一番地寄留 森田豐